

2024 年 8 月

食料安全保障月報

(第 38 号)



令和 6 年 8 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2024 年 8 月食料安全保障月報（第 38 号）

目 次

概要編

I	2024 年 8 月の主な動き	1
II	2024 年 8 月の穀物等の国際価格の動向	5
III	2024/25 年度の穀物需給（予測）のポイント	5
IV	2024/25 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	5
V	今月の注目情報「南米の穀物等の生産・輸出動向」	6

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	1 2
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 3
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 4
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 6
5	食品小売価格の動向	2 0
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC 提供）	2 1
7	FAO 食料価格指数	2 3

今月のコラム

「米国ポートランドのレストラン事情」	2 4
--------------------	-----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2024/25 年度の生産量は下方修正され 53.9 百万トンの見込み
	＜カナダ＞	2024/25 年度の生産量は下方修正され 34.4 百万トンの見込み (AAFC)
	＜豪州＞	2024/25 年度の生産量は上方修正され 30.0 百万トンの見込み
	＜EU27＞	2024/25 年度の生産量は下方修正され 127.8 百万トンの見込み (欧州委員会)
	＜ロシア＞	2024/25 年度の輸出量は前年度より 7.5 百万トン減少
	＜ウクライナ＞	2024/25 年度の生産量は上方修正され 21.6 百万トンの見込み
	＜中国＞	2024/25 年度の小麦の輸入量は前年度より 1.6 百万トン減少
2	とうもろこし	9
	＜米国＞	単収の引上げにより、生産量は 1.2 百万トン上方修正
	＜ブラジル＞	2024/25 年度の生産量は 4.1%増加の見込み
	＜アルゼンチン＞	2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25 年度の生産量は、前年度より 16.3%減の見込み
	＜中国＞	2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

3 コメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
＜タイ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み	
＜米国＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.2%増加する見込み	
＜中国＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.0%増加する見込み	
＜インド＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み	
＜ベトナム＞ 2023/24 年度の生産量は、前年度に比べ 1.9%減少する見込み	
II 油糧種子	
大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
＜米国＞ 作付面積と単収の引上げにより、生産量は 4.2 百万トン上方修正	
＜ブラジル＞ 2024/25 年度の生産量は前年度より 10.5%増加する見込み	
＜カナダ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度より 1.7%増加する見込み (AAFC)	
＜中国＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 0.7%減少する見込み	
＜アルゼンチン＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 4.1%増加する見込み	
（参考 1）本レポートに使用されている各国の穀物年度について（2024/25 年度）・・・	27
（参考 2）単位換算表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
（参考 3）各国のクロップカレンダー一覧（主要品目毎）・・・・・・・・	28

【利用上の注意】

表紙写真：米国のオレゴン州グリーン・バレー市の圃場。冬小麦の収穫作業が進捗している。（オレゴン州グリーン・バレー市 2024 年 7 月 31 日）

(概要編)

I 2024 年 8 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2024/25 年度の作況について、北半球では小麦等が収穫期を迎えており、とうもろこしや大豆等の作物が生育期から成熟期を迎えている。なお、南半球では 2023/24 年度の作物の収穫がほぼ終了している。

2024/25 年度の状態について、品目別にみると、8 月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、ロシア及び EU で単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、米国及び豪州で単収・収穫面積ともに増加、インドで単収が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022 年 3 月に過去最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する 4 者合意（黒海穀物イニシアティブ）については 2023 年 7 月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU の東欧経由での輸出の進捗も含め注視が必要。

とうもろこしについては、ブラジル及び南アフリカで単収・収穫面積ともに前年度より増加、中国で収穫面積が増加するものの、米国で収穫面積の減少、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。

大豆については、ブラジル及び米国で単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に穀物の価格の低下等により、6 月の 121.0 から、7 月（最新値）は 120.8 に下落（参考：2023 年 7 月 124.6、2022 年 7 月 140.6、2021 年 7 月 124.4、2020 年 7 月 93.9）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近 5 カ年の平均値と同程度の水準で推移。

早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021 年 7 月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2024 年 8 月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省 HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 8 月需給報告によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は、収穫面積は増加するものの単収が減少することから、前年度より 6 % 減少し 2,160 万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より 16% 減少し 2,720 万トンとなる見込み。2024/25 年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より 24% 減少し 1,400 万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より 19% 減少し 2,400 万トンとなる見込み。

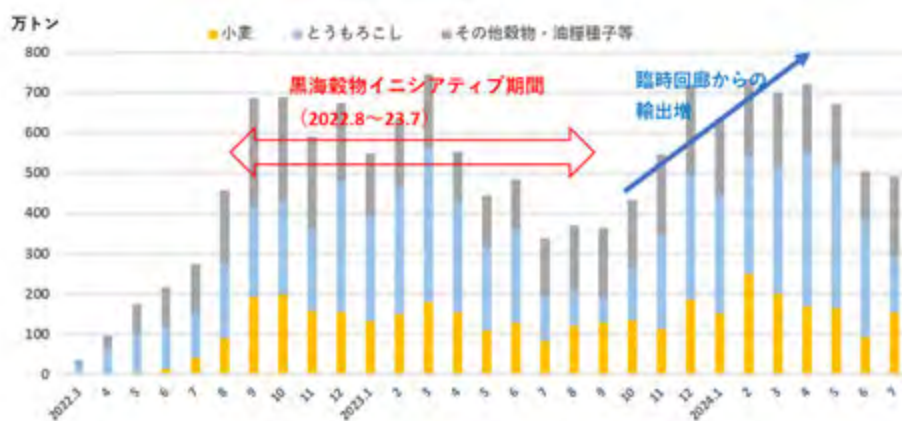
ウクライナ農業政策食料省によれば、8 月 8 日現在、2024 年度の冬小麦及び春小麦の収穫進捗率は 97.4% と収穫作業はほぼ終了した。ウクライナ気象センターによれば、7 月末現在、とうもろこしは主産地では概ね乳熟期にある。多くの地域で乾燥による立ち枯れや葉の黄変が発生している。

臨時回廊からの輸出状況

2022 年 7 月 22 日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの 4 者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年 8 月以降、オデーサ港等 3 港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ビブジェヌイ港）からの輸出が再開したが、2023 年 7 月 17 日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022 年 8 月～23 年 7 月）は、穀物・油糧種子等 6,846 万トン（うち、小麦 1,728 万トン、とうもろこし 2,949 万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023 年 8 月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU 域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が増加している。ウクライナ農業政策食料省によれば、2023 年 8 月～24 年 7 月までの穀物・油糧種子等の輸出量は 6,888 万トン（うち小麦 1,859 万トン、とうもろこし 2,888 万トン）と、黒海穀物イニシアティブ履行期間中の輸出量を超えた（参考）。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022 年 3 月～2024 年 7 月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 ウクライナ：高温乾燥によりとうもろこしの作柄が悪化

USDA によれば、2024/25 年度のウクライナのとうもろこしの生産量は、前月予測から 2% 下方修正され、前年度から 16% 減の 2,720 万トンとなる見込み。収穫面積は 410 万ヘクタールと、前月予測から 5% 上方修正されたものの、前年度より 2% 減少。単収は 6.63 トン/ヘクタールと、前月予測から 7% 下方修正され、前年度より 17% 減少した。

今月の単収の下方修正は、とうもろこしの生育初期以来、降雨不足が続いたことによる。7 月上旬から中旬にかけて続いた高温乾燥により、ウクライナの主要産地で土壌水分が大幅に不足し、開花期にあった作物の作柄が悪化した(図 1、図 2)。

なお、現在、臨時回廊により安定的な輸出が維持されており、2023/24 年度のとうもろこしの輸出量は、前年度より 9% 増加し 2,950 万トンとなる見込み。注目すべき輸出動向は、中国向け輸出が減少する一方、エジプト、トルコへの輸出が増加する見通しであり、インド向けに小ロットでの輸出が開始されるなど、輸出先国の多角化が進められていることである。

2 インド：国内需要増と輸出規制により穀物輸出が減少

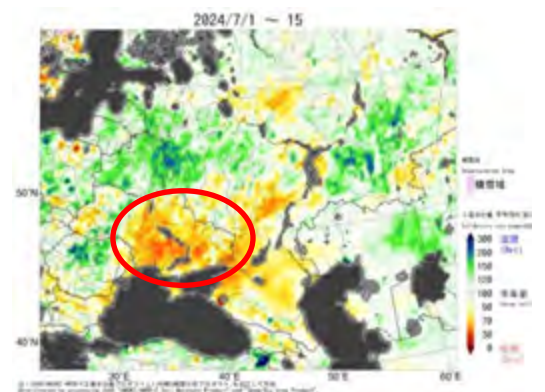
USDA によれば、近年、インドは旺盛な国内需要と政府の政策により、世界の穀物市場における主要供給国としてのプレゼンスが低下している。

とうもろこしについては、今世紀初めて純輸入国となる水準近くまで輸出量が減少している。これは、主に養鶏向け飼料用需要の急増と、政府のバイオエタノール生産の奨励政策によるエタノール用需要の増加による。

コメについては、インドは過去 10 年間、世界最大のコメ輸出国であったが、2022 年 9 月以降の政府によるコメ輸出規制（輸出禁止及び輸出税）により、輸出量が減少傾向にある。

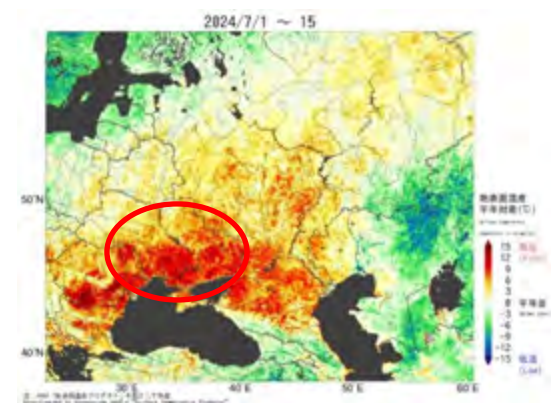
小麦については、2022 年 5 月に政府が小麦の輸出禁止を実施して以来、小麦の輸出はごくわずかとなっている。旺盛な国内需要に伴い、2023/24 年度の小麦の期末在庫量は過去 15 年で最低水準まで低下している。

図 1：ウクライナの土壌水分量(平年対差)
(2024. 7. 1～7. 15)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図 2：ウクライナの地表面温度(平年対差)
(2024. 7. 1～7. 15)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図 3：インドの穀物輸出量の推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

3 中東：紅海における船舶航行の安全確保が困難なため回避

イスラエルとハマスの戦闘が継続する中、報道等によれば、2023年12月以降、イエメンの親イラン武装組織フーシ派が、地中海とインド洋をスエズ運河経由で結ぶ紅海を航行する商船を攻撃しており、海運各社は貨物輸送をアフリカ喜望峰経由等に迂回させている。

また、パナマ運河については、2023年7月以降、降雨不足による水位低下に伴う通航制限が継続している。雨季の到来に伴い、水位は徐々に最適な水準に回復しつつあり、パナマ運河庁は、2024年7月11日より1日当たりの通航船舶を32隻から33隻、同22日より34隻、8月5日より35隻へと増加させている。

我が国の穀物輸入に関しては、小麦は主に米国・カナダ西海岸及び豪州から輸入しており、また、ブラジル産穀物等の多くは喜望峰経由で輸入していることから、上記2つのルートを通過しない。

一方、米国産のとうもろこし及び大豆は、メキシコ湾（ガルフ）からパナマ運河経由で輸入している場合が多いが、パナマ運河の通行料の高止まり等の影響により、米国西海岸（PNW）や喜望峰経由に切り替えている例がみられる。喜望峰経由の場合、ガルフからパナマ運河経由で輸入する場合と比較して2週間から3週間程度日数が嵩む。引き続き、今後の動向について注視が必要である。



II 2024 年 8 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、7 月末、190 ドル/トン台前半で推移。8 月に入り、EU の作柄懸念等を受けて 190 ドル/トン台後半まで上昇したものの、ロシア及びウクライナ産小麦との競争懸念等から下落し、8 月中旬現在、190 ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、7 月末、150 ドル/トン台前半で推移。8 月に入り、米国の豊作見通しや市場予想を上回る作付面積を受けて下落し、8 月中旬現在、140 ドル/トン台半ばで推移。

コメは、7 月末、610 ドル/トン付近で推移。8 月に入り、タイバーツ高にもかかわらず、引き続き新穀の出回りによるタイ国内価格の低下等から値を下げ、8 月中旬現在、600 ドル/トン台前後で推移。

大豆は、7 月末、370 ドル/トン台後半で推移。8 月に入り、米国農務省需給報告において世界の生産量と在庫量が市場予想を上回ったこと等を受けて下落し、8 月中旬現在、340 ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2024/25 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より 0.8% 増の 28.30 億トン。消費量は、前年度より 0.7% 増の 28.37 億トンとなり、5 年連続で生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り 27.1% となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.30 億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.37 億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで減少し、穀物全体で減少し、4.99 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.70 億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は 8 月の USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

IV 2024/25 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.91 億トン。消費量は前年度を上回り 6.64 億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る 22.7% となる見込み。

(注：数値は 8 月の USDA 「Oilseeds : World Markets and Trade」等による)

V 今月の注目情報: 南米の穀物等の生産・輸出動向

南米では2023/24年度のとうもろこし・大豆の収穫がほぼ終了し、小麦は2024/25年度の作付けが開始されている。2023/24年度は、エルニーニョ現象の影響を受け、ブラジル中西部では高温乾燥、南部では降雨過多となり減産となった一方、アルゼンチンでは、ラニーニャ現象の影響から60年に1度といわれる干ばつに見舞われた2022/23年度から回復し、増産となった。両国の2023/24年度の生産・輸出動向を振り返るとともに、2024/25年度の見通し等についてまとめた。

注：文中の「2024/25年度」等は市場年度で、ブラジル及びアルゼンチンの大豆は2024年10月から2025年9月、とうもろこしは2025年3月から2026年2月。国や作物によって異なる(品目別需給編 P.27 参照)。

1 ブラジルの生産・輸出動向

(1) とうもろこし

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告によれば、2023/24年度のとうもろこしの生産量は、前年度に比べ12%減少し1億1,565万トンとなる見込み。

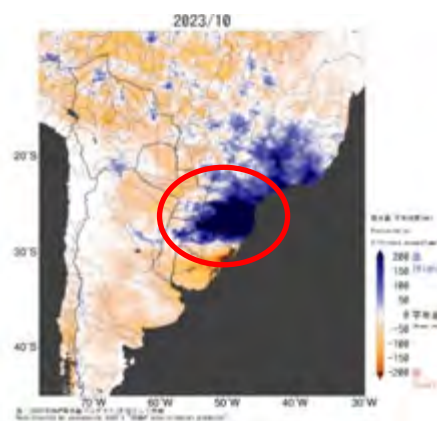
2023/24年度の夏とうもろこしの作付けは2023年9月に開始された。主産地の南部ではエルニーニョ現象の影響を受け多くの地域で作付期に降雨過多（図1）となり、土壌の浸食による栄養分の欠乏や発芽不良が生じた。生産量は、作付期の降雨過多及び日照不足による単収の低下に加え、とうもろこし価格の下落により収益の見込める大豆に作付けがシフトしたことから、前年度に比べ16%減少し2,296万トンとなる見込み。

2023/24年度の冬とうもろこしの作付けは2024年1月に開始された。エルニーニョ現象の影響を受けて主産地の中西部のマットグロッソ州、ゴイアス州では生育初期に高温乾燥に見舞われ（図2）、南部のマットグロッソ・ド・スール州、パラナ州では3～4月に高温乾燥に見舞われ作柄が悪化した。収穫作業は5月より開始されたが、州により気象条件が異なったことにより単収にバラつきが生じている。生産量は、高温乾燥による単収の低下に加え、大豆の作付作業の遅延により冬とうもろこしの作付適期が短縮されたことによる作付面積の減少から、前年度に比べ12%減少し9,269万トンとなる見込み。

USDAによれば、2024/25年度のとうもろこしの生産量は、国際的なとうもろこし生産量の増加や中国の景気低迷による国際需要の鈍化、ブラジルの貯蔵力不足等を受け、生産者はとうもろこしの作付けに慎重な姿勢をみせているものの、エルニーニョ現象の収束により、単収が改善すると見込まれることから、前年度に比べ4%増加し1億2,700万トンとなる見込み。なお、作付作業は2024年10

図1 南米の降水量(平年対差) (2023. 10)

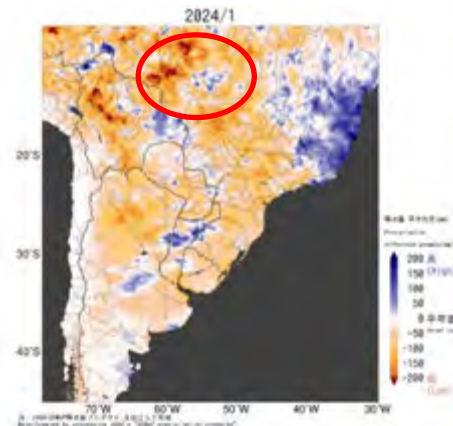
ブラジル南部で降雨過多



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図2 南米の降水量(平年対差) (2024. 1)

ブラジル中西部で高温乾燥



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

月以降に開始される見込み。

(2) 大豆

2023/24 年度の大豆の作付けは 2023 年 9 月に開始された。CONAB によれば、主産地のマットグロッソ州では高温乾燥により多くの地域で作付作業に遅れが生じ、一部の地域では作付けのやり直しが必要となった。遅植えの品種は、生育条件に恵まれ作柄は概ね良好となった。一方、ブラジル南部では降雨過多となり、土壌の浸食による栄養分の欠乏や発芽不良が生じた。また、南部のパラナ州では同年 12 月後半以降の高温乾燥により、開花期及び登熟期の大豆に深刻な被害が出た。リオ・グランデ・ド・スール州では、2024 年 4 月下旬から 5 月上旬にかけての降雨過多により州の生産地域の大部分で洪水が発生し（図 3）、同州農業技術普及公社（EMATER/RS）によれば、大豆圃場の約 149 万ヘクタール（総面積の 22%）が洪水被害を受け、271 万トン以上の損失（洪水前の生産量予測の 12%）が出たと推定している。

2023/24 年度の大豆の生産量は、エルニーニョ現象の影響により多くの生産地域で単収が低下したことから、前年度に比べ 5 % 減少し 1 億 4,738 万トンとなる見込み。

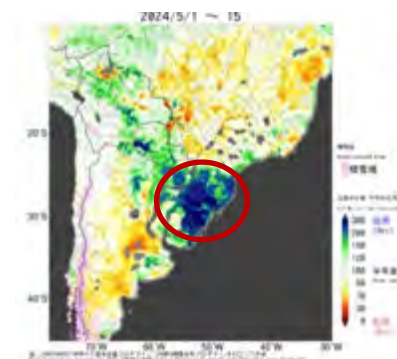
USDA によれば、2024/25 年度の大豆の生産量は、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることや、前年度に深刻な影響を及ぼしたエルニーニョ現象の収束により単収が改善すると見込まれることから、前年度に比べ 10% 増加し 1 億 6,900 万トンとなる見込み。

(3) 輸出動向

とうもろこしについて、ブラジルの主要輸出先は、中国、日本、ベトナムなどのアジア諸国、イランなどの中近東諸国、スペインなどの欧州諸国、アルジェリアなどのアフリカ諸国等、多岐にわたっている（図 4）。USDA によれば、ブラジルは 2022/23 年度に米国を抜き世界第 1 位の輸出国となった。これは、同年度に過去最高の豊作となったことに加え、主要なとうもろこし輸出国である米国やアルゼンチンが乾燥の影響を受け減産となったこと、2022 年 2 月のロシアのウクライナ侵攻を契機にそれまでウクライナからとうもろこしを輸入していた中東諸国等がブラジルからの輸入を増加させたこと、2022 年 11 月から、中国がブラジルからとうもろこし輸入を開始したことが要因であった。一転、2023/24 年度は、エルニーニョ現象の影響による減産に加え、米国やアルゼンチンの豊作を背景に国際市場での供給量が増加したことから、世界第 2 位の輸出国となる見込み。2024/25 年度

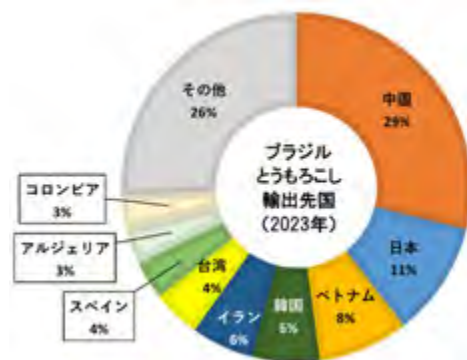
図 3 南米の土壌水分量(平年対差)(2024. 5)

リオ・グランデ・ド・スール州で洪水発生



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図 4 ブラジルのとうもろこし輸出先国



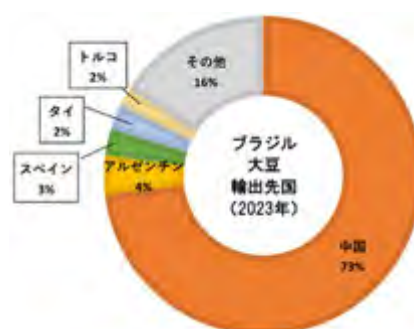
出典：Global Trade Atlas をもとに農林水産省で作成

図 5 とうもろこし輸出量の国別推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

図 6 ブラジルの大豆輸出先国



出典：Global Trade Atlas をもとに農林水産省で作成

の輸出量は、ブラジルのバイオエタノール生産によりとうもろこしの国内需要の増加が予測されることから、前年度に比べ2%減少し4,900万トンとなる見込み（図5）。

大豆について、ブラジルの主要輸出先は、中国向けが大半を占めている（図6）。USDAによれば、ブラジルは2012/13年度以来、継続して世界第1位の輸出国である。2023/24年度は、生産量の減少にもかかわらず、高い価格競争力と中国向けの輸出増から、過去最高を記録する見込み。2024/25年度の輸出量は、エルニーニョ現象の収束により前年度に比べ生産量が増加することに加え、レアル安と中国からの引き続き堅調な需要から、前年度と同様の1億500万トンと過去最高を維持する見込み（図7）。

2 アルゼンチンの生産・輸出動向

（1）小麦

アルゼンチン農牧漁業省（MAGyP）の月例報告によれば、2023/24年度の小麦の生産量は、前年度に比べ26%増加し1,590万トンの見込み。ラニーニャ現象の影響を受け60年に1度といわれる干ばつに見舞われた前年度からは大幅に回復したものの、過去8年間で2番目に低い水準となった。これは、生育初期に生産地の大部分で降雨不足に見舞われたため。

2024/25年度の小麦の作付作業は2024年5月から始まった。USDAによれば、2024/25年度の小麦の生産量は、前年度に比べ14%増加し1,800万トンとなる見込み。4月の降雨により土壌水分量が良好となり作付けに適した条件が確保された（図8）。これまでのところ、産地の大部分で作物の生育状況は良好である。

（2）とうもろこし

MAGyPによれば、2023/24年度の生産量は、干ばつに見舞われた前年度に比べ38%増加し5,730万トンの見込み。作付期の2023年9月の降雨不足（図9）により早植えとうもろこしの作付けは減少したものの、10月末から11月初めにかけての降雨により、遅植えとうもろこしの作付けが増加した。2024年1月末から2月初旬にかけて高温乾燥型の天候が続き、作柄の悪化が懸念されたが、2月上旬から3月にかけて主産地のほぼ全域で降雨が記録され、地域によりばらつきがみられるものの、作柄が改善した。2月以降、病害虫のヨコバイによる被害が発生し、遅植えとうもろこしの作柄が大幅に悪化した。特にアルゼンチン北部で深刻な被害が発生した。

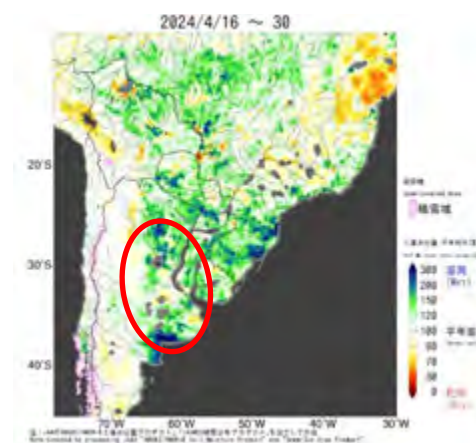
図7 大豆輸出量の国別推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

図8 南米の土壌水分量(平年対差)(2024.4)

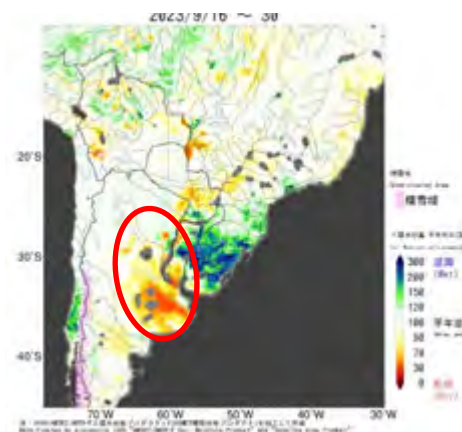
小麦作付期の土壌水分量は十分



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図9 南米の土壌水分量(平年対差)(2023.9)

早植えとうもろこし作付期の土壌水分量は不足



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

USDA によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は 5,100 万トンと、前年度に比べ 2 % 微増する見込み。これは、ヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落から収益が見込める大豆に作付けがシフトすることにより収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が増加すると見込まれることによる。なお、2024/25 年度の作付けは 2024 年 8 月下旬以降に開始される見込み。

(3) 大豆

MAGyP によれば、2023/24 年度の実生産量は、干ばつとなった前年度に比べ 96% 増加し 4,900 万トンの見込み。1 月末から 2 月初旬にかけて高温乾燥型の天候が続いたものの、その後の降雨により作柄が改善した (図 10)。

USDA によれば、2024/25 年度の実大豆の生産量は、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることから、前年度に比べ 4 % 増加し 5,100 万トンとなる見込み。なお、2024/25 年度の作付けは 2024 年 11 月以降に開始される。

(4) 輸出税等の関連政策

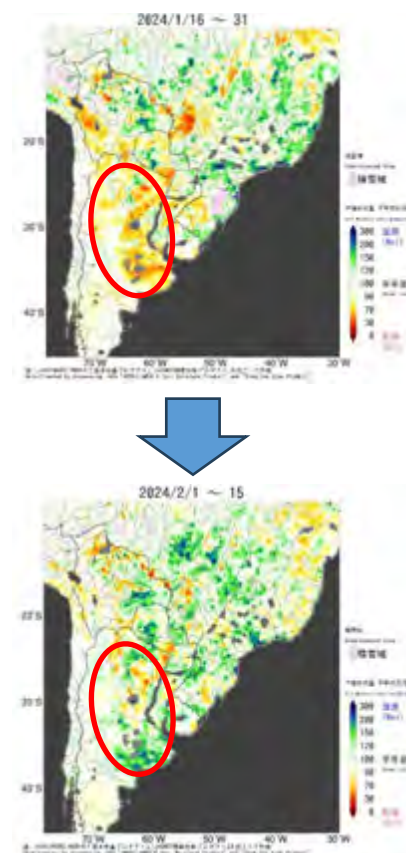
アルゼンチン政府は、従来から財政不足を補うため、農産物に対して輸出税を課しており、2024 年 7 月現在、小麦・とうもろこしは 12%、大豆は 33%、大豆油・大豆粕は 31% となっている。

また、アルゼンチンには、公式の為替レートである公定レートと、ブルーレートと呼ばれる非公式レートが存在する。2024 年 8 月 16 日現在、公式レートが 922 ペソ/USD (購入)、非公式レートが 1,315 ペソ/USD (購入) となっており、公式レートと非公式レートで 40% を超える為替ギャップが存在する (表)。これらの措置により、生産資材等の輸入時の為替レートとして非公式レートが適用されるため、輸入代金支払いの外貨取得が生産資材等の価格上昇を招く傾向にある。一方、農産物の輸出時の為替レートとして公式レートが適用されるため、ペソに交換された輸出代金は低く抑えられ、農業関係者の反発を招く傾向にある (アルゼンチンでは、輸出で得た外貨を全てペソに交換することを輸出業者に義務付けている)。

なお、とうもろこしや小麦については、国内供給を確保するために輸出上限数量が設定されていたが、2024 年 5 月に撤廃された。

図 10 南米の土壤水分量 (平年対差) (2024. 1)

1 月末の高温乾燥も、その後の降雨により土壤水分量は潤沢に



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

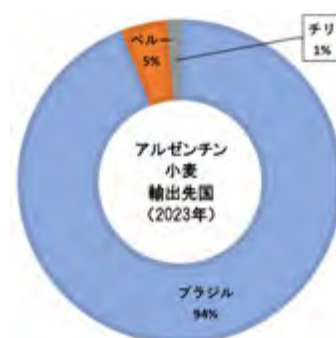
表 アルゼンチンの為替レート一覧

非公式レート	公式レート	銀行レート
1,315	922	941

購入レート：米ドルでアルゼンチンペソを購入
(2024年8月16日現在)

出典：<https://bluedollar.net/>

図 11 アルゼンチンの小麦輸出先国



出典：Global Trade Atlas をもとに農林水産省で作成

(5) 輸出動向

小麦について、アルゼンチンの主要輸出先は、ブラジル向けが大半を占める（図 11）。USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、干ばつとなった前年度から大きく回復し、124%増の 820 万トンとなる見込み。2024/25 年度の輸出量は、期首在庫量と生産量の増加により供給量の増加が見込まれるため、前年度から 40%増加し 1,150 万トンとなる見込み。

とうもろこしについて、アルゼンチンの主要輸出先は、ベトナム、マレーシア、韓国などのアジア諸国、ペルー、チリなどの中南米諸国、アルジェリアなどのアフリカ諸国、エジプト、サウジアラビアなどの中近東諸国等、多岐にわたっている。USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、干ばつとなった前年度から回復し、39%増の 3,500 万トンとなる見込み。2024/25 年度の輸出量は、生産量の増加と期首在庫量の増加が見込まれるため、前年度から 3 %増加し 3,600 万トンとなる見込み。

大豆について、USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、大豆油と大豆粕の輸出増に伴い、前年度より 20%減少し 450 万トンとなる見込み。アルゼンチンは、付加価値のついた大豆油や大豆粕の輸出が主流となっており、丸大豆の輸出量は少ない。現地輸出業者によれば、現在、ペソ安が進行する中、生産者は 2023/24 年度の生産量の 73%に相当する大豆を現物で保有しているという。資本取引規制による公式レートと非公式レートの乖離も要因の 1 つとみられている。なお、2024/25 年度の大豆油の輸出量は前年度から 15%増の 550 万トンとなる見込み。また、大豆粕の輸出量は、前年度から 12%増の 2,730 万トンとなる見込み。

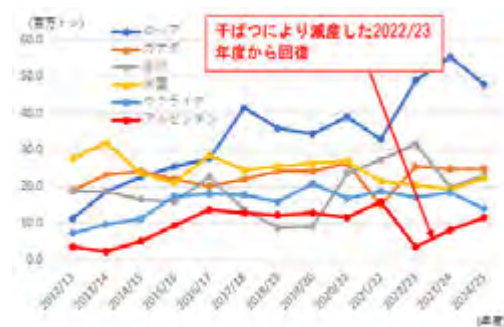
3 今後の動向

2023/24 年度は、エルニーニョ現象の影響を受け、ブラジル中西部は高温乾燥、ブラジル南部は降雨過多となり、ブラジルにとって厳しい年となった。一方、アルゼンチンでは、60 年に 1 度といわれる干ばつに見舞われた 2022/23 年度から回復し大幅な増産となった。2024/25 年度の小麦の作付けは 5 月に開始された。とうもろこしについては 8 月以降、大豆については 11 月以降に開始される。USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、両国ともに、小麦、とうもろこし、大豆のいずれの作物も増加する見込みとなっている。

一方、北半球では、現在、2024/25 年度のとうもろこし、大豆の生育が進展しており、小麦は収穫期を迎えている。米国では、生育期間を通じて生育に適した天候に恵まれ、小麦、とうもろこし、大豆のいずれの作物も豊作となる見込み。他方、EU 西部では降雨過多、ロシア、ウクライナでは高温乾燥により作物の作柄が悪化し生産量は減少する見込み。地域によりばらつきはあるものの、2024/25 年度の世界の穀物及び大豆の生産量は史上最高を更新する見込みとなっている。

世界的に穀物及び大豆の生産量は潤沢であるとの見方から、2024 年 8 月 16 日現在の穀物等の国際価格は 2020 年の水準まで低下している。しかしながら、ウクライナ情勢や中東情勢な

図 12 小麦輸出量の国別推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

図 13 アルゼンチンのとうもろこし輸出先国



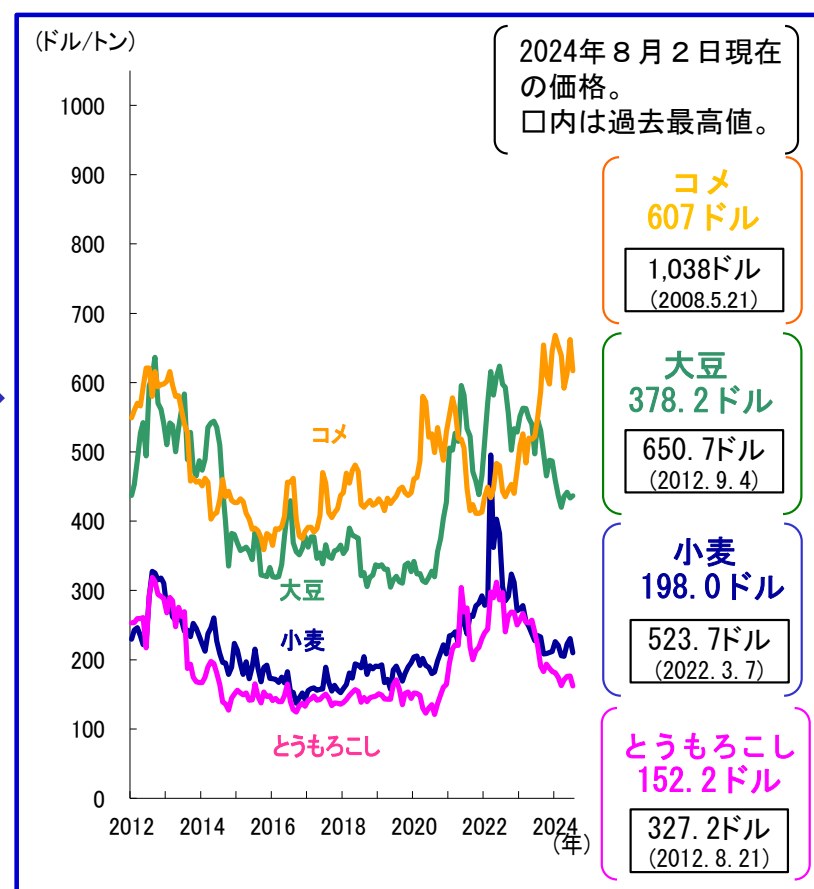
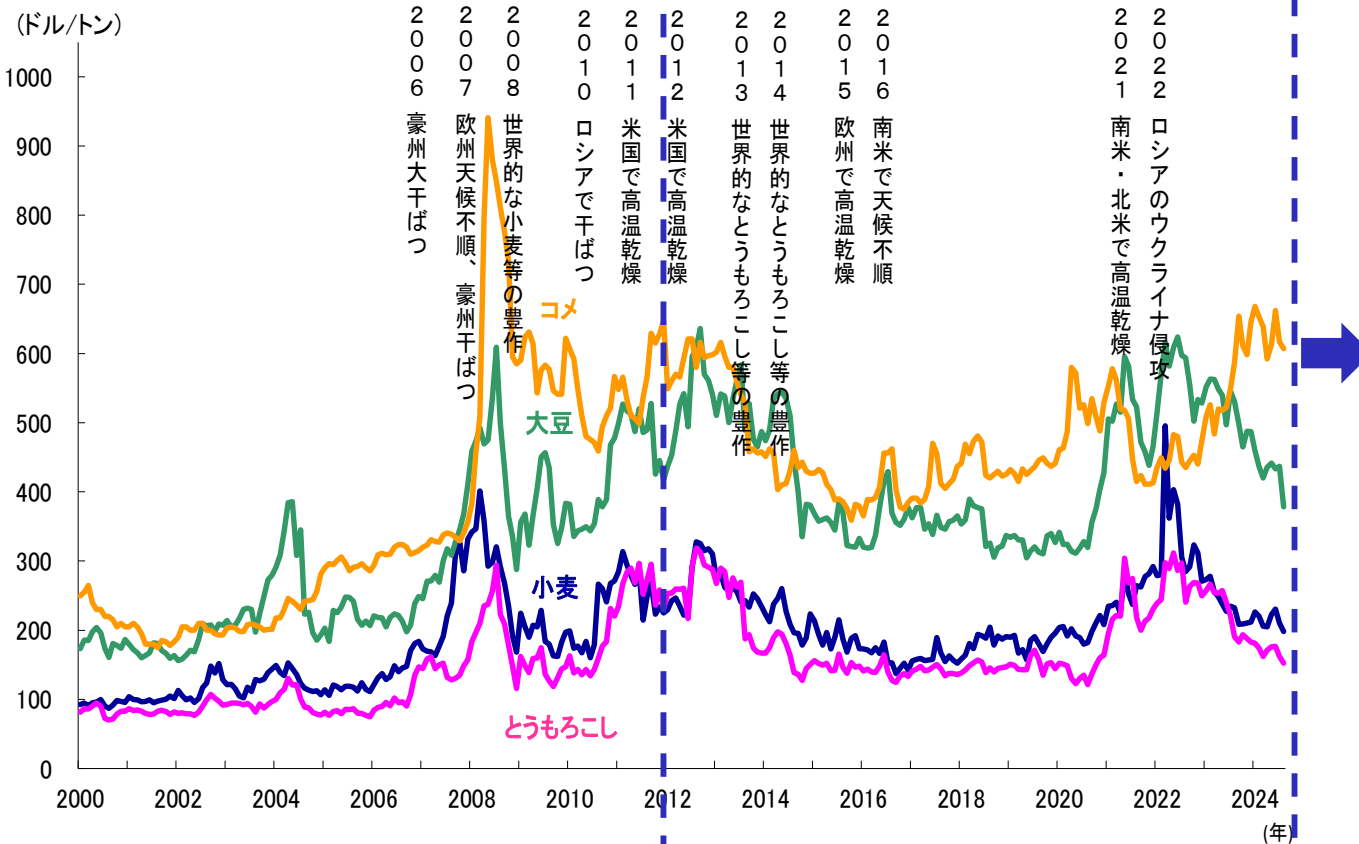
出典：Global Trade Atlas をもとに農林水産省で作成

どの地政学リスクは継続しており、また、ラニーニャ現象の発生による気象の変化にも注意が必要である。引き続き南米における生産・輸出動向を含め、世界の穀物需給の動向を注視していきたい。

資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2013年以降低下で推移も、2022年9月以降、インドの輸出規制導入と強化、インドネシアのエルニーニョによる減産を受けた需要増等から上昇。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



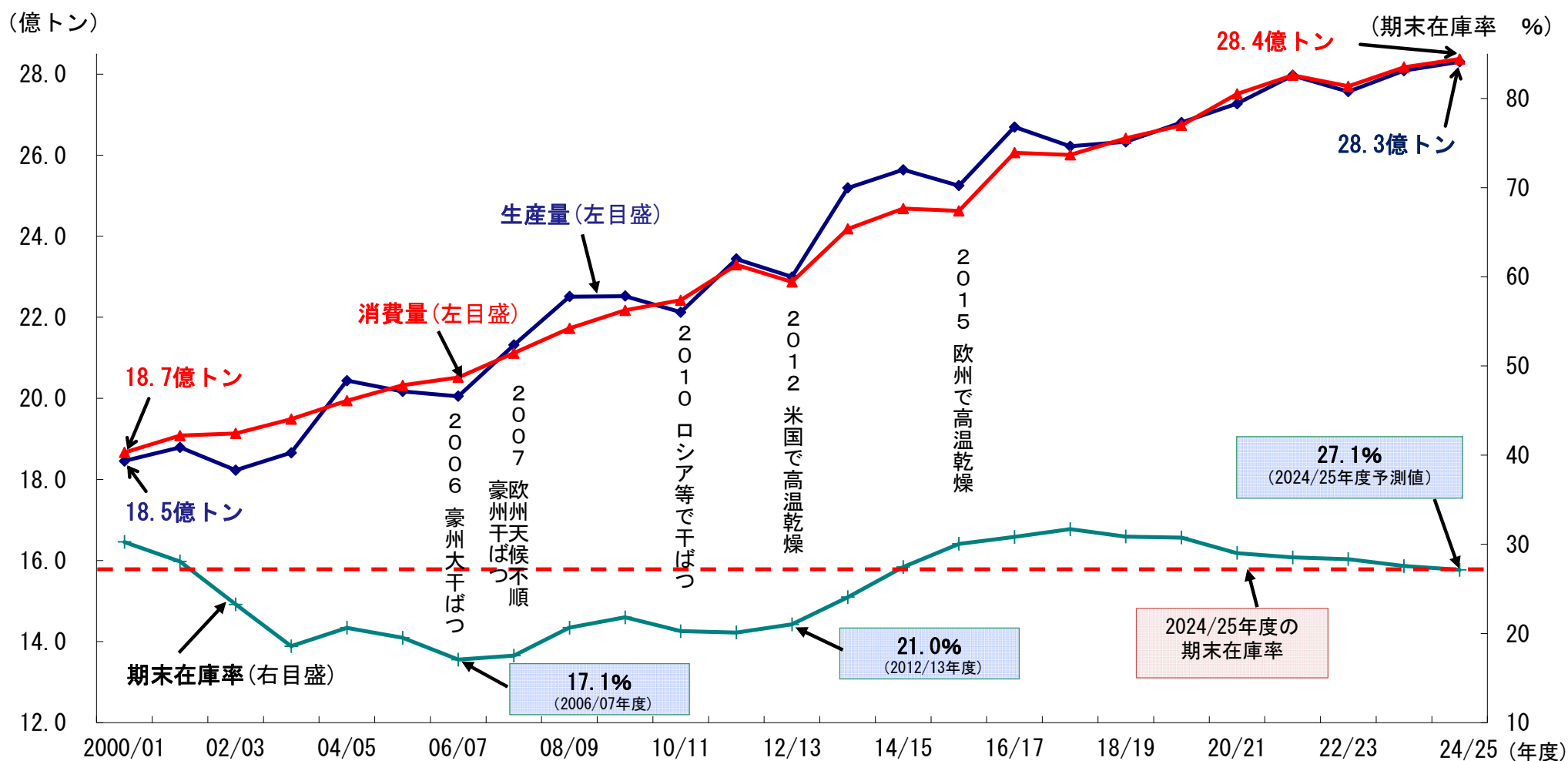
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セトルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。
なお、コメ価格は7月31日の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.1%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

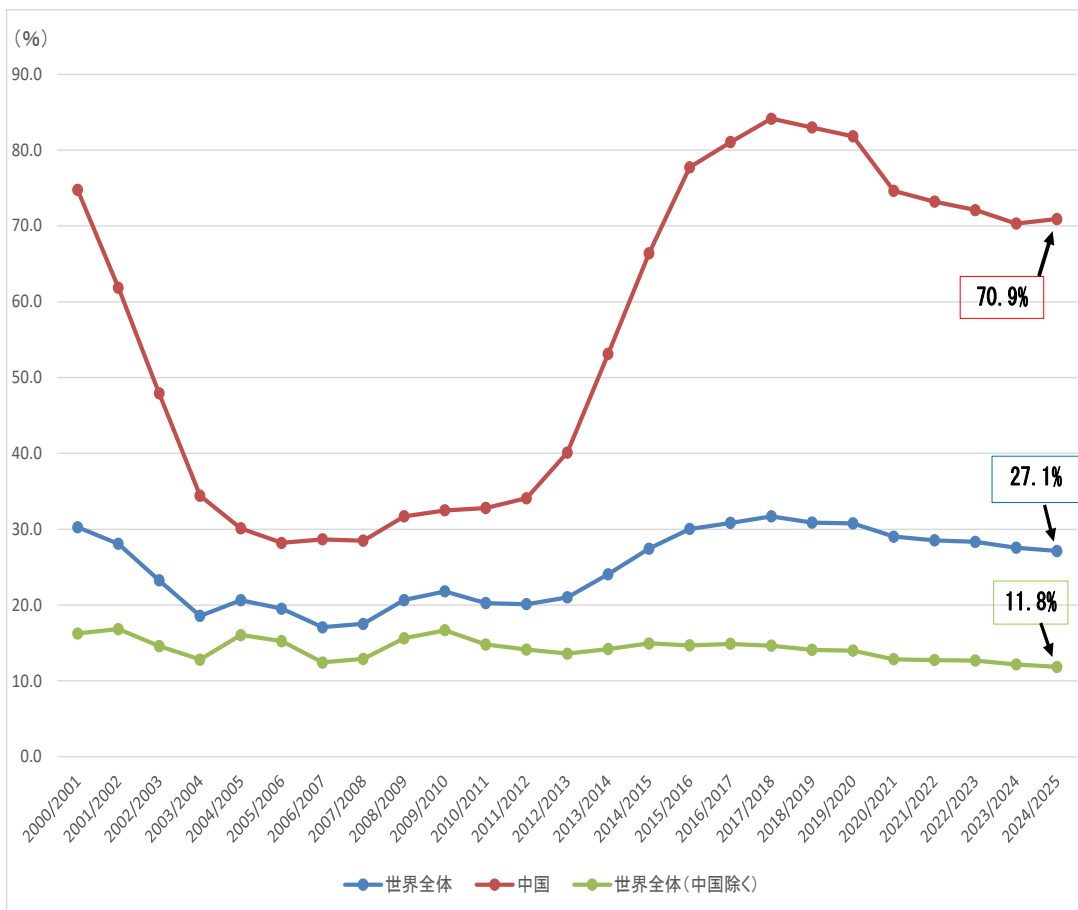


資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(August 2024)、「PS&D」

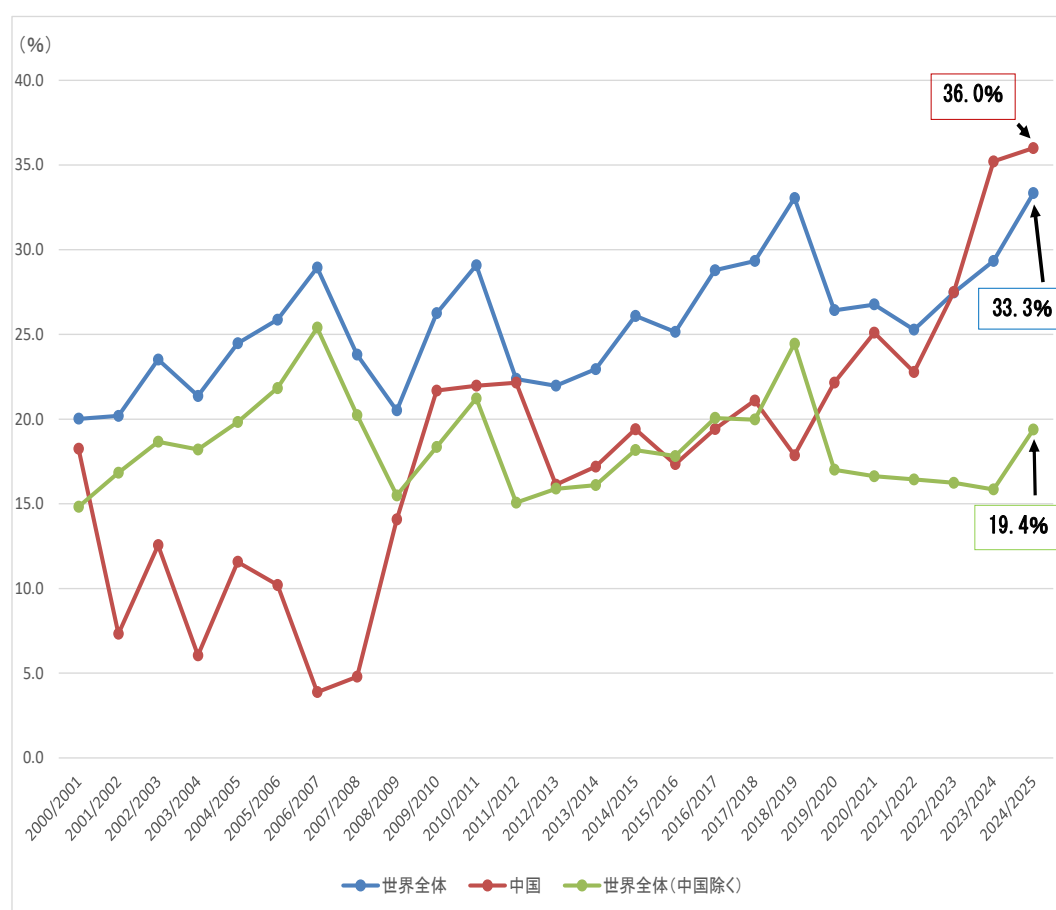
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(August 12, 2024)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

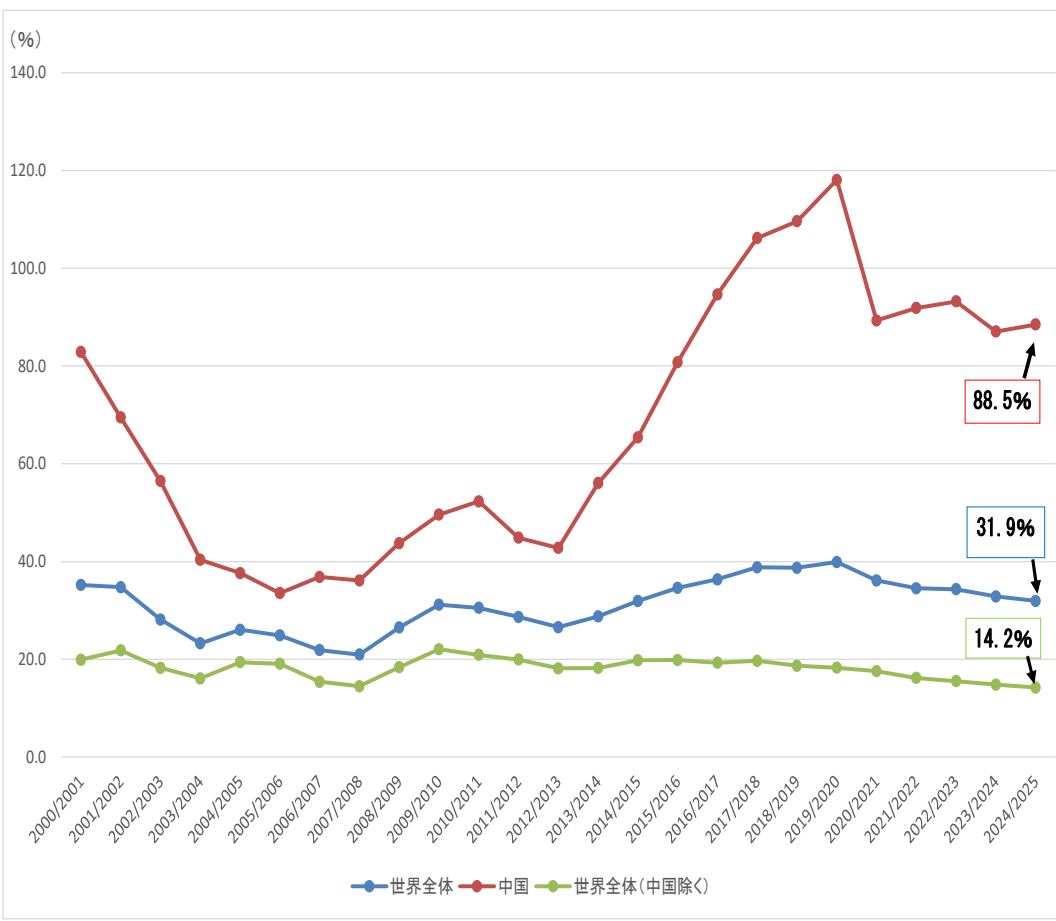
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

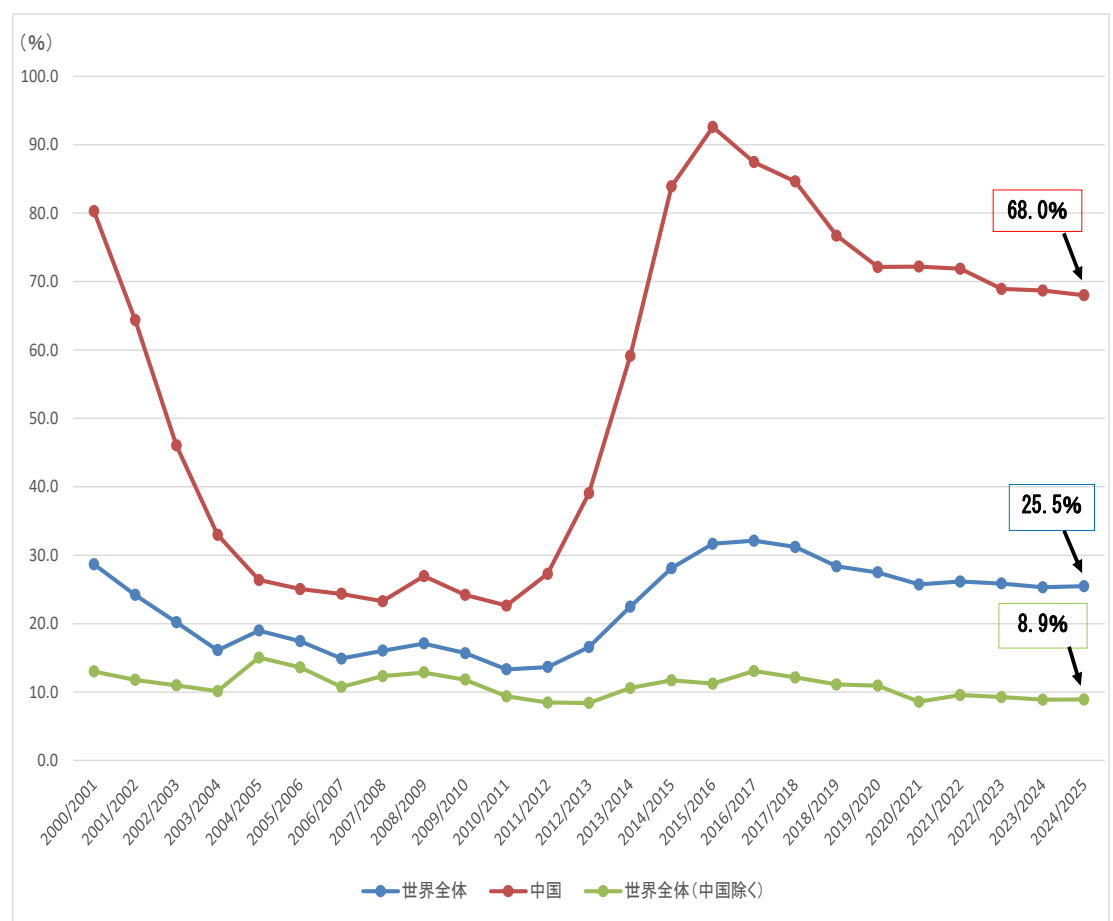
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(August 12, 2024)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

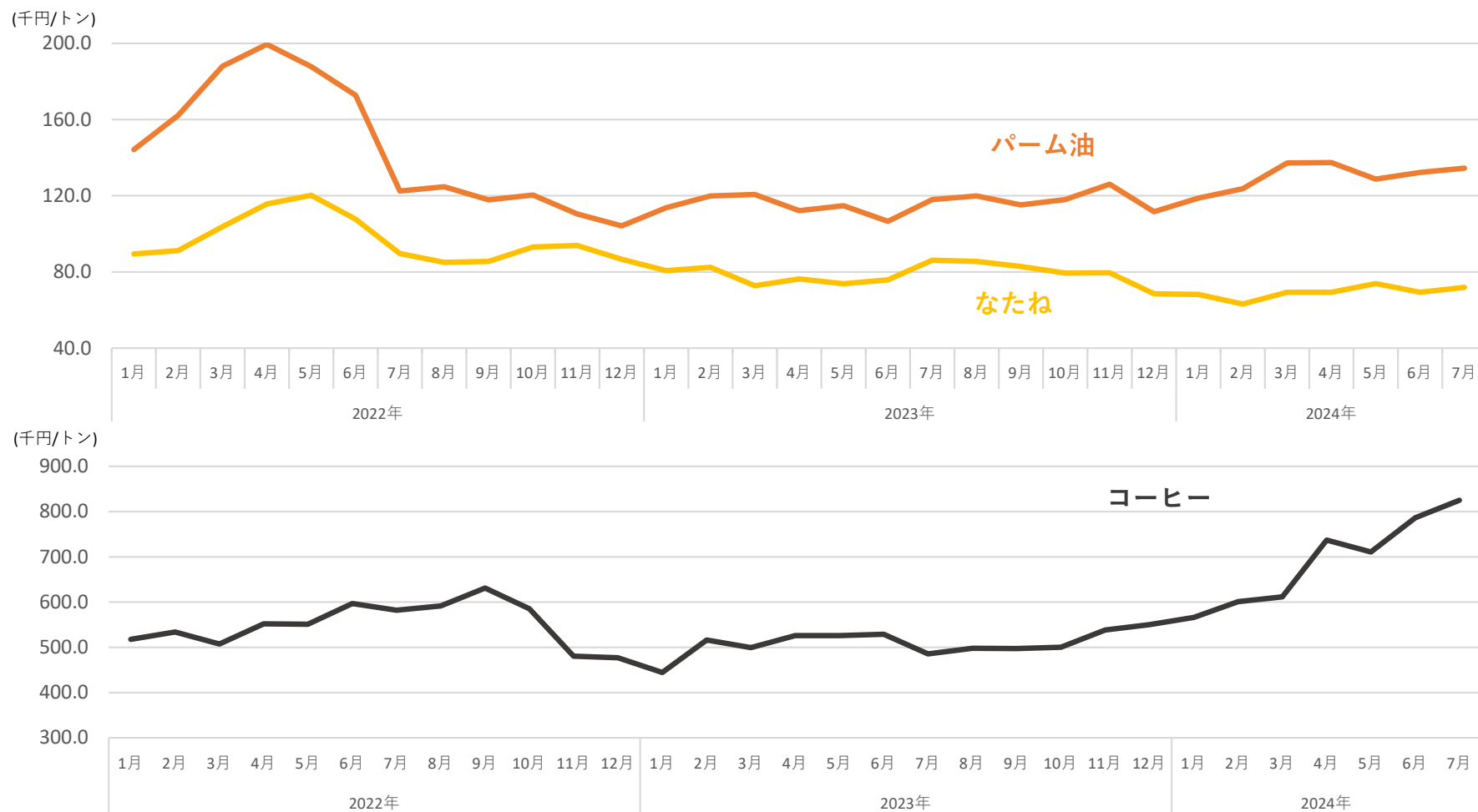
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料４－１ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油の需要の面では、世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などにより市場価格上昇の要因となっている。
- なたね、パーム油の供給の面では、なたねについては、**2021年**に主産地であるカナダで減産があったが、**2022年以降**は回復基調から平年並みの収量に近づいた。パーム油については、インドネシアの輸出禁止措置（**2022年5月23日解除**）があったが、マレーシアの生産量の増加によって供給不足の懸念が払拭された。いずれも**2022年**の高値からは落ち着きが見られるものの、依然高止まりしている。
- コーヒーについて、**2021年以降**、世界最大の生産国であるブラジルにおける天候不順による収穫量減少や世界的な物流の混乱等により、市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルにおける収穫量の回復等により、市場価格は一時下降したが、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、**2024年以降**は再び市場価格が高騰している。



2024年8月20日現在
□内は2022年1月以降の最高値。

パーム油
134.4 千円/トン
199.5千円/トン
(2022.4)

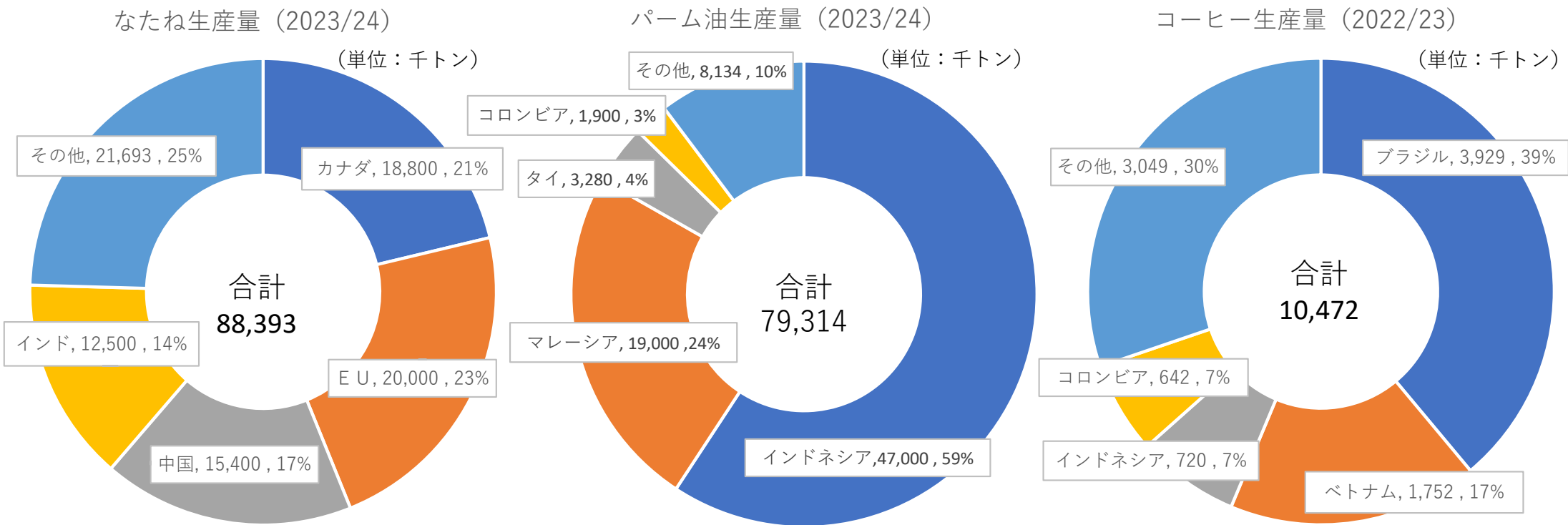
なたね
71.9千円/トン
120.3千円/トン
(2022.5)

コーヒー
825.0千円/トン
825.0千円/トン
(2024.7)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2024年 6 月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合	パーム油	輸入量	割合	コーヒー	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%	マレーシア	574	85.6%	ブラジル	124	35.0%
オーストラリア	983	48.6%	インドネシア	96	14.4%	ベトナム	99	27.9%
その他	0	0.0%	その他	0	0.1%	コロンビア	34	9.6%
合計	2.022	100.0%	合計	671	100.0%	その他	98	27.6%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料 4－3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね 単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	89.4	91.2	103.7	115.7	120.3	107.7	89.6	85.0	85.5	93.1	93.8	86.6	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9	86.2	85.5	82.8	79.4	79.6	68.6	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9					
前月比	100.6	102.0	113.8	111.5	104.0	89.5	83.3	94.8	100.6	108.9	100.8	92.3	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7	113.6	99.2	96.9	95.9	100.2	86.1	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7					
前年同月比	164.3	148.3	148.1	162.0	143.9	139.8	115.1	109.1	112.3	110.1	101.5	97.5	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5	96.1	100.6	96.9	85.3	84.8	79.2	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5					

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油 単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	144.2	162.2	188.0	199.5	187.8	172.8	122.4	124.7	117.9	120.4	110.4	104.2	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5	117.9	119.8	115.1	118.0	126.1	111.6	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4					
前月比	112.5	112.4	115.9	106.1	94.1	92.0	70.9	101.9	94.5	102.1	91.7	94.4	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9	110.7	101.6	96.1	102.4	106.9	88.5	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7					
前年同月比	155.0	157.5	166.6	184.4	151.2	177.3	110.5	103.7	98.1	85.9	77.0	81.3	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7	96.3	96.1	97.7	98.0	114.2	107.1	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0					

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③コーヒー

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コー ヒー	517.9	534.1	507.5	552.1	551.2	596.8	582.3	591.6	631.1	585.4	480.6	477.0	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0					
前月 比	100.6	103.1	95.0	108.8	99.8	108.3	97.6	101.6	106.7	92.8	82.1	99.2	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9					
前年 同月 比	194.1	190.6	172.9	188.0	169.5	172.9	158.3	152.4	151.4	128.4	98.8	92.7	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9					

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和6年7月の国内の加工食品の消費者物価指数は113.4～152.7（前年同月比で-8.4%～6.5%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省）
（令和6年2月～令和6年7月）

	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5	R6						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	平均	2月	3月	4月	5月	6月	7月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	100.2	101.1	100.0	99.2	110.3	118.7	121.8	122.1	121.9	121.7	122.0	122.4	0.9%
即席めん	95.3	98.5	100.0	100.1	107.6	119.7	125.2	123.9	123.5	124.6	121.4	122.9	-2.1%
豆腐	98.8	99.1	100.0	101.3	105.3	114.6	117.5	117.6	118.0	117.9	117.9	118.1	2.6%
食用油 (キャノーラ油)	101.5	100.9	100.0	106.9	144.4	160.2	151.3	148.3	148.0	147.8	149.0	146.8	-8.4%
みそ	97.4	99.1	100.0	99.3	101.3	108.1	112.6	112.9	113.3	113.2	113.8	113.4	5.0%
マヨネーズ	100.8	100.7	100.0	105.6	125.6	149.5	154.2	153.4	153.7	153.4	152.3	152.7	-0.8%
チーズ	100.9	101.3	100.0	98.7	107.5	131.1	132.7	134.5	135.3	130.5	132.6	132.3	-1.8%
バター	99.5	99.9	100.0	99.9	99.2	108.6	119.1	118.8	120.2	120.5	120.0	119.6	6.5%
生鮮食品を 除く食料	97.9	99.0	100.0	100.2	104.1	112.6	115.1	115.3	115.5	115.7	115.9	116.3	2.6%

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料：総務省消費者物価指数

【参考】
食品価格動向調査（農林水産省）
（令和6年2月～令和6年8月）

	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5	R6								
品目	平均	平均	平均	平均	平均	平均	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	97.9	101.3	100.0	98.6	107.8	114.5	117.4	118.6	115.0	117.8	118.9	118.2	118.6	0.3%	1.5%
即席めん	92.4	97.9	100.0	99.2	105.6	117.5	121.0	121.0	117.3	119.8	114.9	121.0	120.4	-0.5%	-1.5%
豆腐	100.1	100.9	100.0	100.6	103.7	113.0	114.6	115.0	118.9	116.7	115.0	115.9	115.9	0.0%	1.1%
食用油 (キャノーラ油)	97.9	103.5	100.0	104.1	140.7	159.4	151.4	150.5	145.1	145.1	144.1	142.9	145.1	1.5%	-10.7%
みそ	96.6	100.4	100.0	99.2	100.1	105.9	110.4	110.2	106.7	108.1	109.2	110.0	109.8	-0.2%	4.8%
マヨネーズ	97.9	103.1	100.0	102.2	117.7	139.8	144.4	143.4	140.3	138.6	141.3	140.3	140.6	0.2%	-2.6%
チーズ	98.6	100.9	100.0	98.1	105.7	126.5	128.8	129.8	123.8	121.3	127.8	129.3	129.3	0.0%	-0.8%
バター	99.0	99.5	100.0	99.8	99.1	108.0	118.5	118.5	119.7	119.4	119.7	119.7	119.7	0.0%	7.5%

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2：調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3：調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4：令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2024年9月号（8月26日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）24年5月の牛肉輸出量はわずかに減少、日本向けはかなり大きく増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003369.html

（EU）牛肉生産量は増加も枝肉価格は高値を維持

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003370.html

（豪州）24年7月の成牛と畜頭数、旺盛な輸出需要を反映し高水準で推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003371.html

（NZ）米国向け牛肉輸出が堅調、年度累計（10月～6月）は前年同期比17.5%増

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003372.html

◆豚肉

（メキシコ）24年の豚肉生産量、輸入量はともに前年を上回る見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003373.html

（ブラジル）24年1～6月豚肉輸出、中国向けは減少もアジアや米州向けが増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003374.html

資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

◆牛乳・乳製品

（米国）24年6月の生乳生産量は前年同月比1.0%減、価格は高値で推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003375.html

（EU）24年7月のバター価格、在庫確保の動きから上昇を継続

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003376.html

（NZ）24/25年度シーズン開始、輸出振るわず乳価への影響懸念

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003377.html

（中国）生乳生産量の伸びは低下するも、乳価下落は止まらず

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003378.html

◆飼料穀物

（世界：トウモロコシ）米国などの増産見込みを受けて期末在庫は高水準の見通し

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003379.html

（世界：大豆）米国の生産減も輸出入量は変わらず、期末在庫はかなりの増加見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003380.html

（米国）作付面積の拡大に伴い生産量は上方修正、生産者販売価格は引き続き低迷

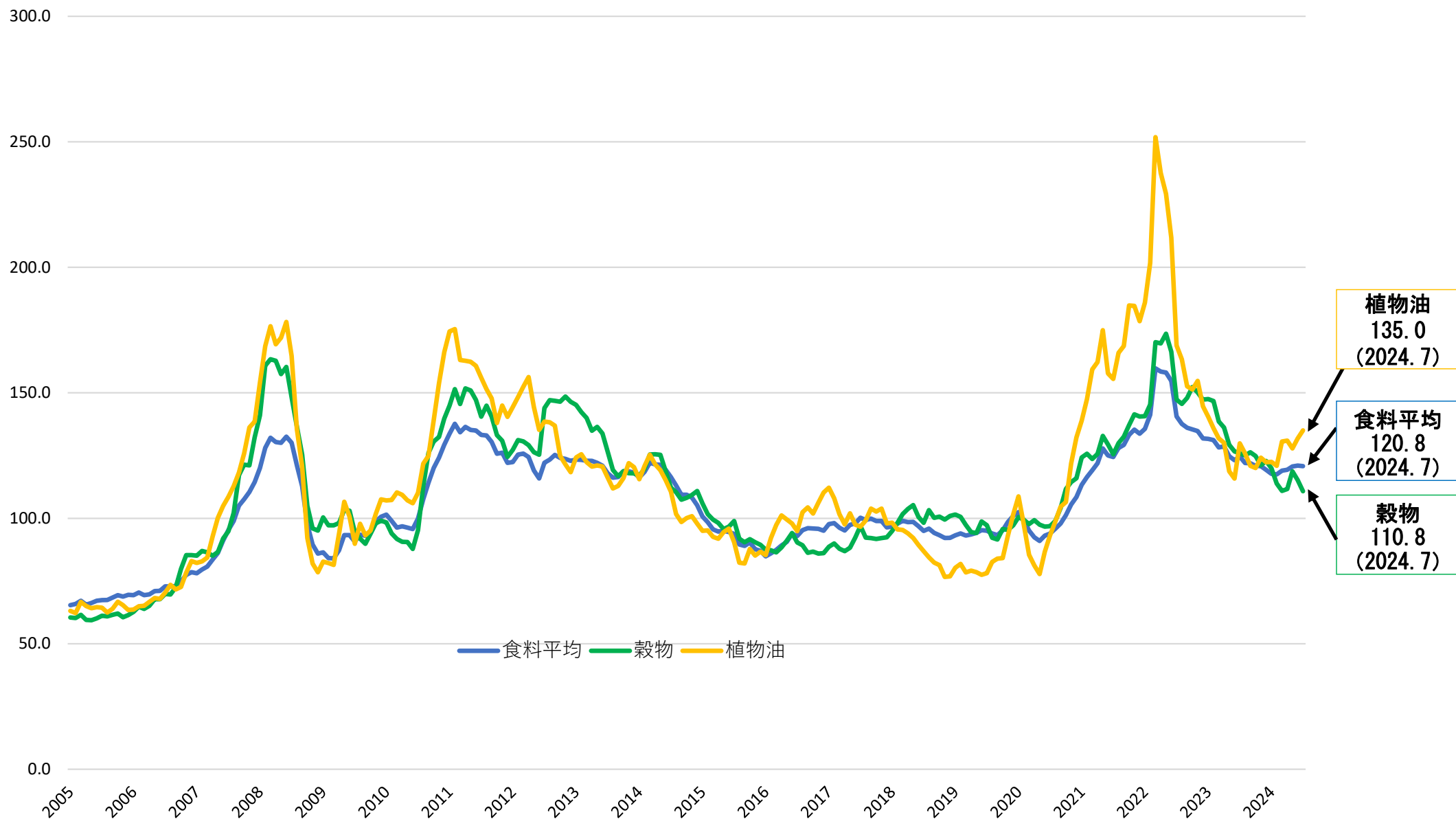
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003381.html

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003382.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2024.7)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

【今月のコラム】

米国ポートランドのレストラン事情

前回寄稿した「米国太平洋岸北西部（PNW）のビール事情」に続き、今回は「美食の街」とも言われるポートランドのレストラン事情の特徴についてご紹介したいと思います。皆さんはアメリカ料理と聞いて、大きなハンバーガーやサンドウィッチ※¹、分厚いステーキに大量のフライドポテト（マッシュポテト）、を想像するでしょうか。いわゆるアメリカ的な料理も確かに根強い人気がありますが、「Keep Portland Weird（ポートランドよ、変わり者であれ）」というスローガンの下、リベラルな空気が濃いポートランドでは、世界各地※²のテイストを織り込んだフュージョン系アメリカ料理が人気を博しています。

※¹ 牛肉以外の肉を挟んだ場合にはハンバーガーでなくサンドウィッチと称します。

※² ハイチ、ペルーといった中南米地域、日本、韓国、タイ、インドといったアジア地域、フランス、ギリシャ、トルコ、ロシアといった地中海・欧州地域など

例えば、ポートランド市東部の「KAAN」（カーン）というハイチ系フュージョンのレストランは2023年にJames Beard 財団※³（ニューヨーク）のベスト新レストラン賞を受賞しています。このほかにも、ペルー系フュージョン、地元食材愛の強いアジア/イタリア系フュージョン、味わいに和テイストを感じるアメリカン・フュージョンなどの多くのレストランも人気となっています。これらのレストランに共通するのは、「地産地消、オーガニック、サステナブル、ゼロカーボン」など、食材調達から客に提供するまで、健康や環境への配慮するメッセージを前面に出している点です。（写真1）。

※³ レストラン業界の新しい基準を推進しながらアメリカの食文化を支える人々を支援する組織として、料理、食品メディア業界、及びより広範な食品システムのリーダー達を表彰する国内で最も名誉ある賞の一つです。

ポートランドでは1979年に「都市成長境界線（Urban Growth Boundary）」制度が導入されており（図1）、都市開発の範囲を境界線内に制限することで都市機能のコンパクト化推進と、境界線外側の自然や農地の保護に役立ててきました。クラフトビールでも感じたポートランド市民のローカル志向やレストランで感じるエコ志向の背景には、ポートランドが歩んできた歴史や街の近郊で生産される新鮮な農産物等を安定的に調達できる自然環境が寄与していると感じます。

もう1つ、ポートランドのレストラン風景に欠かせないのが「フードカート」と呼ばれる屋台です。いわゆるキッチンカーに似ていますが、フードカートにはエンジン等の動力がないため、トレーラー・レストランというべきでしょうか。フードカートはその起業のしやすさと「他にはないものを」というポートランド気質も相まって、現在では市内に600軒以上の様々なお店があると言われています。これらのお店は、市内各地の商店街の駐車場にあるポッド※⁴と呼ばれる場所で営業されている場合が多いですが（写真2）、昔の精神病院跡地（アサイラム）をポッドに変えて営業している一風変わった場所もあります。

※⁴ 5～10くらいの複数のカートが集まる屋外フードコートのような形態の営業スタイルです。

フードカートで提供されるのは、「洗練された華やかなプレート」というよりは、こちらでも「地元愛あふれる、世界各地域のごはん」という料理です。前述のとおり、ポートランドはリベラルで多様性を受け入れる街だけあって、カートごとに変化に富んだ（塩味、ボリューム等）、美味しい味を楽しむことができます。また、数は少ないですが、日本人がお寿司を提供する店舗も人気です。皆さんも、チャンスがあれば是非ポートランドの空気とともに食シーンを体験してみてください。

文責：重久直人（在ポートランド領事事務所 領事（経済・広報文化班担当））



(写真1) フュージョン系レストランの「片側寄せ」プレゼンテーション。写真左：Coquine（アメリカン/ジャパニーズ系）、同中：G-Love（アジア/イタリアン系）、同右：Canard（フランス系）



(写真2) ポートランド市内にあるポッド（アサイラム）の様子。
写真左：様々な種類のフードカートが並ぶ。写真中：カートで提供される料理（テキサス風メキシカン、辛い。）、写真右：ゴミ箱もなかなか個性的（後ろには有刺鉄線の壁）。



(図1) Urban Growth Boundary
(2023. 8. 3)

【データ・出典】

Travel Portland -ポートランドのフードカート・ポッド：<https://www.travelportland.com/ja/cart-pods/>

James Beard Foundation：<https://www.jamesbeard.org/blog/the-2023-james-beard-award-winners>

野尻洋平・寺島拓幸・水原俊博 2019 「持続可能な消費都市ポートランドの現状と課題」名古屋学院大学論集社会科学篇 第56巻 第1号 P59-77

Metro：<https://www.oregonmetro.gov/urban-growth-boundary>

環境省、世界が注目するポートランドのまちづくり：

https://www.env.go.jp/policy/co2ta/content3/page2_1.html

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴や考え方、また、日本の食料品や文化等に対するイメージなどについてもご紹介したいと思います

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・EU、米国で下方修正されたものの、ウクライナ、カザフスタン、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

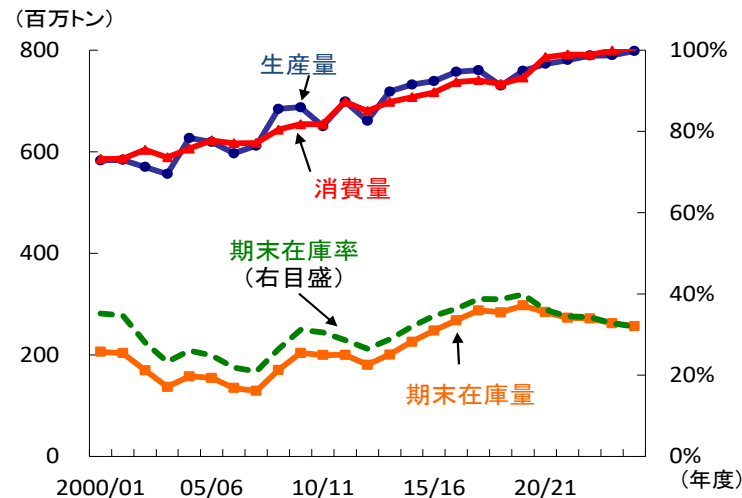
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・エジプト、イラン、チリ等で下方修正されたものの、EU、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出货量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・EU、南アフリカで下方修正されたものの、豪州、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



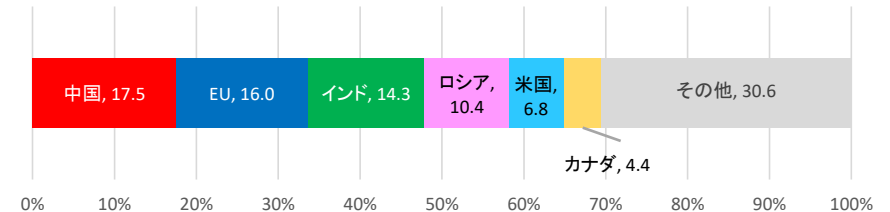
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

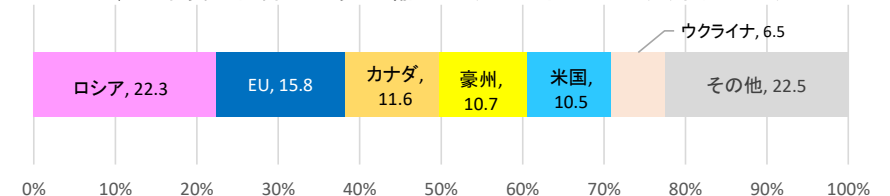
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.0	789.7	798.3	2.1	1.1
消費量	790.6	798.8	804.0	4.1	0.7
うち飼料用	153.9	158.9	151.2	2.8	▲ 4.9
輸 出 量	221.8	220.8	214.9	2.0	▲ 2.7
輸 入 量	213.0	220.4	208.4	1.7	▲ 5.4
期末在庫量	271.4	262.4	256.6	▲ 0.6	▲ 2.2
期末在庫率	34.3%	32.8%	31.9%	▲ 0.2	▲ 0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 August 2024)

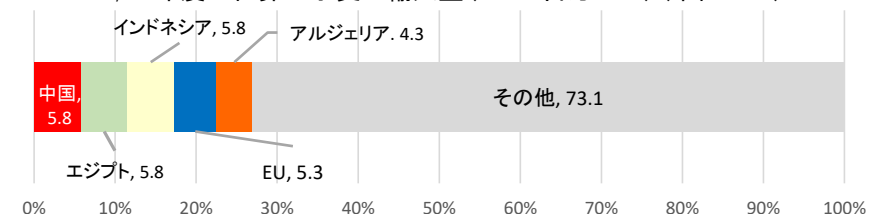
○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(798.3百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出货量(214.9百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(208.4百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は下方修正され 53.9 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積が引き下げられたことを受け前月予測から 0.7 百万トン下方修正され 53.9 百万トンとなるものの、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.4%増、過去 5 年平均 (48.2 百万トン) と比べても 11.8%増となる見込み。

品種別には、ハード・レッド・ウインター (HRW) が 21.1 百万トン (前月比 1.6%増、前年度比 29.1%増)、ホワイト小麦 (WW) が 7.8 百万トン (同 2.9%増、22.7%増) と前月予測から上方修正された一方で、ハード・レッド・スプリング(HRS)が 13.6 百万トン (同 6.3%減、6.6%増)、ソフト・レッド・ウインター (SRW) が前年度の豊作から減少し 9.3 百万トン (同 0.4%減、23.8%減)、デュラム小麦が 2.1 百万トン (同 13.9%減、29.6%増) と前月予測から下方修正された。

同「Crop Progress」(2024.8.12) によれば、8 月 11 日現在、冬小麦の収穫進捗率は 93%と前年同期及び過去 5 年平均の 91%をいずれも上回っている。また、春小麦の収穫進捗率は 18%と前年同期の 20%、過去 5 年平均の 21%をいずれも下回っているものの、作柄は「やや良～良」の割合が 72%と、生育に適した降雨と気温に恵まれ前年同期の 42%を 30 ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 22.5 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの減産による輸出余力の減少に伴う米国産の相対的な価格競争力の高まり等を受けて前年度と比べ 16.7%増となり 4 年ぶりの高水準となるものの、過去 5 年平均 (23.0 百万トン) 比では 2.4%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～7 月の輸出量は、342.6 万トンとなっており、輸出先国はメキシコ (20.6%)、韓国 (11.7%)、フィリピン (9.9%) の順で中国のシェア (2.2%) が減少している。

8 月 9 日時点の FOB 価格は、米国産 (HRW) は冬小麦の収穫進捗と春小麦の良好な生産見通しから前月に比べ下落し 252 ドル/トンと、豪州産やカナダ産の価格に比べ低いものの、EU 産やロシア産に比べ高い水準が継続している。

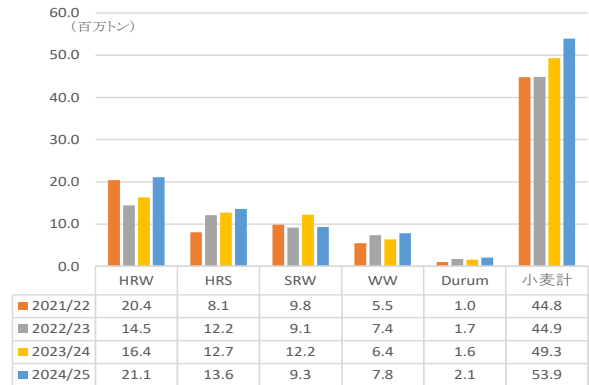
2024/25 年度の期末在庫量は、生産量等の引き下げを受け前月予測から 0.8 百万トン下方修正され 22.5 百万トンと、前年度に比べ 17.9%増加し 4 年ぶりの高水準となる見込み。

小麦－米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (予測値)	2024年6月～25年5月	
				前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	44.9	49.3	53.9	▲ 0.7	9.4
消 費 量	30.3	30.2	30.9	0.1	2.3
うち飼料用	2.0	2.3	3.0	-	28.3
輸 出 量	20.7	19.2	22.5	-	16.7
輸 入 量	3.3	3.8	2.9	-	▲ 23.9
期末在庫量	15.5	19.1	22.5	▲ 0.8	17.9
期末在庫率	30.4%	38.6%	42.2%	▲ 1.5	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.08	15.35	▲ 0.35	1.8
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.51	0.03	7.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 August 2024)

図 品種別生産量の推移



資料：USDA 「Wheat Data」(2024.8.13)をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

2024年6月～7月			2023年6月～2024年5月			2022年6月～2023年5月		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	70.6	20.6	メキシコ	331.9	17.6	メキシコ	357.6	18.1
韓国	39.9	11.7	フィリピン	271.6	14.4	フィリピン	206.9	10.5
フィリピン	33.8	9.9	中国	212.0	11.3	日本	205.9	10.4
日本	28.9	8.4	日本	190.6	10.1	韓国	125.1	6.3
台湾	14.4	4.2	韓国	127.9	6.8	中国	117.2	5.9
インドネシア	14.2	4.1	台湾	110.4	5.9	ナイジェリア	86.7	4.4
その他	140.9	41.1	その他	636.4	33.8	その他	880.6	44.5
計	342.6	100.0	計	1,880.7	100.0	計	1,980.1	100.0

資料：USDA「Federal Grain Inspection Service Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は下方修正され 34.4 百万トンの見込み（AAFC）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2024.8.20）によれば、2024/25 年度の実産量は、7 月を通して暑く乾燥した天候が続く単収が引き下げられたことを受け、前月予測から 1.1 百万トン下方修正され 34.4 百万トンとなるものの、干ばつの影響により減産となった前年度に比べ 7.5%増、過去 5 年平均（31.4 百万トン）と比べても 9.5%増となる見込み。

種類別の生産量は、普通小麦は、前月予測から単収が減少したことから 0.8 百万トン下方修正され 28.3 百万トン（前年度比 1.5%増、過去 5 年平均比 7.0%増）。デュラム小麦も、前月予測から単収が減少したことから 0.3 百万トン下方修正され 6.0 百万トン（同 49.3%増、23.5%増）となる見込み。

主要生産州の各州政府によれば、サスカチュワン州では、8 月 12 日現在、暑く乾燥した天候により作物の生長が早まり収穫が進展している。収穫進捗率は、冬小麦 55%、デュラム小麦 3%、春小麦 2%となっている。アルバータ州では、8 月 13 日現在、降水量不足により土壌水分量の低下が続いている。収穫進捗率は、冬小麦 57.4%、春小麦及びデュラム小麦がそれぞれ 0.3%となっている。マニトバ州では、8 月 13 日現在、春小麦の収穫が始まっており、収穫進捗率は 1%未満で前年同期の 5%を下回っているものの、作柄は概ね良好である。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.05 百万トン下方修正され 25.3 百万トンとなるものの、前年度と比べ 1.7%増となる見込み。種類別には、普通小麦が前年度に比べ 4.2%減少し 20.5 百万トンとなるものの、デュラム小麦は生産量の回復による輸出余力の増加と北アフリカ及び欧州の一部からの需要を受け、前年度に比べ 38.3%増加し 4.8 百万トンの見込み。一方で米国ではデュラム小麦の実産量増加が見込まれており、トルコも含めた競合が予想される。

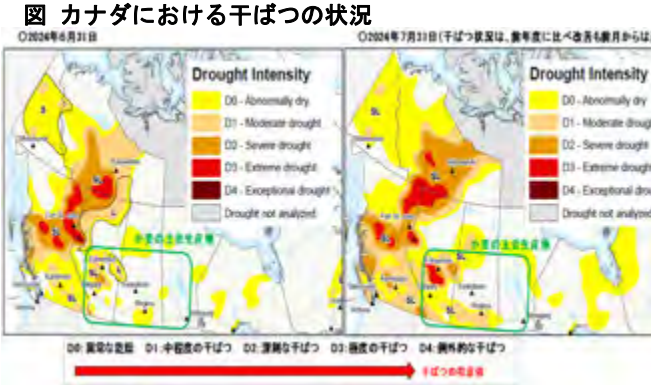
カナダ穀物委員会（CGC）によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 8 月～2024 年 6 月の輸出量は、普通小麦が 1,976.0 万トンと、前年同期（1,803.9 万トン）に比べ 9.5%増加しており、輸出先国は中国（14.8%）、インドネシア（11.6%）、バングラデシュ（8.7%）の順。また、デュラム小麦は 325.7 万トンと、生産量の減少と豊作となったトルコとの競合により前年同期（484.8 万トン）に比べ 32.8%減少しており、輸出先国はアルジェリア（27.4%）、モロッコ（23.7%）、米国（13.1%）の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引き下げ等を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 2.8 百万トンとなるものの、前年度に比べ 20.4%増となる見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	34.3	32.0	35.0 (34.4)	-	9.5
消費量	9.5	9.2	9.3 (8.8)	-	1.1
うち飼料用	4.3	4.0	4.0 (4.4)	-	-
輸出量	25.6	25.0	25.0 (25.3)	-	-
輸入量	0.6	0.6	0.6 (0.2)	-	▲ 1.8
期末在庫量	3.5	1.8	3.1 (2.8)	▲ 0.02	68.3
期末在庫率	10.0%	5.4%	9.0% (8.2%)	▲ 0.1	3.6

（参考）
収穫面積(百万ha) 10.08 10.68 10.60 (10.61) - ▲ 0.7
単収(t/ha) 3.41 2.99 3.30 (3.24) - 10.4
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 August 2024)



資料：AAFC 「Canadian drought monitor」をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦						(輸出量:万トン)					
2024年6月			2023年8月～2024年6月			2022年8月～2023年6月					
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
インドネシア	18.3	12.4%	中国	292.9	14.8%	中国	271.3	15.0%			
中国	13.1	8.8%	インドネシア	229.2	11.6%	インドネシア	180.9	10.0%			
ペルー	11.8	8.0%	バングラデシュ	172.7	8.7%	日本	154.4	8.6%			
日本	10.0	6.8%	日本	158.6	8.0%	ペルー	134.6	7.5%			
バングラデシュ	8.5	5.7%	ペルー	122.4	6.2%	バングラデシュ	132.9	7.4%			
その他	86.2	58.3%	その他	1,000.2	50.6%	その他	929.7	51.5%			
計	147.8	100.0%	計	1,976.0	100.0%	計	1,803.9	100.0%			

○デュラム小麦						(輸出量:万トン)					
2024年6月			2023年8月～2024年6月			2022年8月～2023年6月					
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
モロッコ	6.9	32.3%	アルジェリア	89.3	27.4%	アルジェリア	118.6	24.5%			
米国	6.2	29.1%	モロッコ	77.2	23.7%	イタリア	117.9	24.3%			
アルジェリア	2.9	13.8%	米国	42.6	13.1%	モロッコ	78.5	16.2%			
日本	1.8	8.5%	イタリア	39.8	12.2%	米国	47.8	9.9%			
ペルー	1.3	6.2%	日本	20.4	6.3%	チェコ	32.5	6.7%			
その他	2.2	10.2%	その他	56.4	17.3%	その他	89.4	18.4%			
計	21.4	100.0%	計	325.7	100.0%	計	484.8	100.0%			

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2024/25 年度の生産量は上方修正され 30.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、収穫面積が引き上げられたこと及び降雨による生育状況の改善に伴う単収の引き上げを受け、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 30.0 百万トンと、前年度と比べ 15.4%増、過去 5 年平均（29.8 百万トン）と比べても 0.5%増となる見込み。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」（2024.6.4）によれば、2024/25 年度の生産量は、エルニーニョ現象の影響による降雨不足のために土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が引き上げられる（収穫面積は前年度比 2.6%増、単収は同 9.2%増）ことを受け 29.1 百万トンと、前年度と比べ 12.1%増となるものの、過去 5 年平均（29.8 百万トン）と比べると 2.5%減となる見込み。

西豪州穀物産業協会（GIWA）（2024.8.16）によれば、ウェスタンオーストラリア州（WA 州）では、降雨が続いていることやここ数週間の暖かい天候により、前月よりも作物の生長が進んでおり、土壌水分の改善から生長が遅れていた作物も通常に近い状態となっている。2024/25 年度の実産量は、前月予測から 0.85 百万トン上方修正され 10.05 百万トンとなる見込み。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.8.13）によれば、8 月 4 日～10 日の週に西部と北東部の小麦生産地域に散発的な降雨があり、WA 州及びニューサウスウェールズ州（NSW 州）の作柄見通しは良好に保たれた一方、サウスオーストラリア州（SA 州）及びビクトリア州（VIC 州）では乾燥した天候により土壌水分が減少しており、更なる降雨が必要となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の上方修正による輸出余力の増加等を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 23.0 百万トンと、前年度と比べ 15.0%増、過去 5 年平均（22.4 百万トン）と比べても 2.5%増となる見込み。

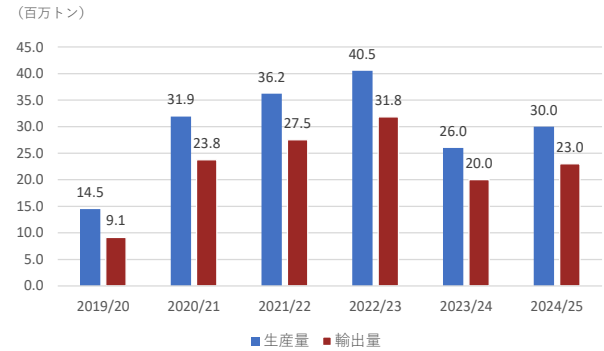
2023/24 年度のうち 2023 年 10 月～2024 年 6 月までの輸出量は 1,610.6 万トンと、乾燥により生産量が減少したことから前年同期（2,544.1 万トン）に比べ 36.7%減少している。同期間の輸出先国は、中国（23.2%）、インドネシア（15.9%）、フィリピン（10.8%）の順となっており、前年同期と同様に中国のシェアが高くなっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 3.8 百万トンと、前年度に比べ 5.6%増となる見込み。

小麦－豪州（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	40.6	26.0	30.0 (30.1)	1.0	15.4	
消 費 量	8.0	7.0	7.0 (8.2)	-	-	
うち飼料用	4.5	3.5	3.5 (4.5)	-	-	
輸 出 量	31.8	20.0	23.0 (21.5)	1.0	15.0	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.4	3.6	3.8 (3.3)	-	5.6	
期末在庫率	11.0%	13.2%	12.6% (11.3%)	▲ 0.4	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	13.05	12.50	12.80 (12.75)	0.30	2.4	
単収(t/ha)	3.11	2.08	2.34 (2.36)	0.02	12.5	
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 August 2024)、 IGC 「Grain Market Report」(18 July 2024)						

図 豪州の小麦の生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024. 8. 12)をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)							
2024年6月		2023年10月～2024年6月		2022年10月～2023年6月			
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量
フィリピン	27.1	21.5	中国	373.6	23.2	中国	639.4
韓国	15.2	12.0	インドネシア	256.3	15.9	インドネシア	348.4
中国	13.5	10.7	フィリピン	173.6	10.8	ベトナム	237.5
ベトナム	12.8	10.1	イエメン	120.0	7.5	韓国	226.5
マレーシア	10.9	8.6	ベトナム	98.6	6.1	フィリピン	221.9
インドネシア	9.7	7.7	韓国	96.6	6.0	タイ	181.4
その他	36.9	29.3	その他	491.9	30.5	その他	689.0
計	126.0	100.0	計	1,610.6	100.0	計	2,544.1

資料：ABARES 「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25 年度の生産量は下方修正され 127.8 百万トンの見込み（欧州委員会）

【生育・生産状況】欧州委員会（EC）「EU Cereals Balance Sheets」（2024.7.25）によれば、2024/25 年度の生産量は、フランス等で生産量が下方修正されたことにより前月予測から 0.6 百万トン下方修正され 127.8 百万トンと、2023 年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、降雨過多等により収穫面積が減少すること等を受け、前年度比 3.6%減、過去 5 年平均比 4.2%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から 1.1 百万トン下方修正され 120.8 百万トンと、前年度比 3.8%減、過去 5 年平均比 4.1%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比 85.1%増の 6.5 百万トンとなる一方、フランスが降雨過多等を受け同 15.3%減の 29.4 百万トン、ドイツも同 5.4%減の 20.0 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 7.0 百万トンとなるものの、前年度比 0.2%減、過去 5 年平均比 6.4%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比 102.5%増の 0.9 百万トンとなる一方、イタリアが乾燥により同 14.5%減の 3.1 百万トン。

【貿易情報・その他】EC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正となるものの、主要輸出国であるフランス等での降雨過多による減産等により前年度比 6.6%減の 32.7 百万トンの見込み。

2023/24 年度のうち 2023 年 7 月～2024 年 5 月までの輸出量は、普通小麦が 3,254.4 万トンで、前年同期に比べ 7.4%増。デュラム小麦は 87.5 万トンで、前年同期に比べ 9.0%増となっている。

USDA によれば、FOB 価格は生産量の減少を受けフランス産、ロシア産及びウクライナ産とも上昇しているが、ロシア産及びウクライナ産はフランス産よりも引き続き価格競争力があることから、EU は中東、アフリカ及びアジアでの市場シェアを減少させる可能性がある。また、カナダ及び米国の生産見通しが良好であることから、中国市場でも両国との競争に直面するとみられる。

EC によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測から 0.07 百万トン下方修正され 8.0 百万トンと、ウクライナの減産に伴い同国からの輸入量が減少すること等から、前年度比 33.1%減となる見込み。

2023/24 年度のうち 2023 年 7 月～2024 年 5 月までの輸入量は、普通小麦が 905.6 万トンで、前年同期と同水準。また、デュラム小麦は 237.1 万トンで、前年同期に比べ 23.8%増。

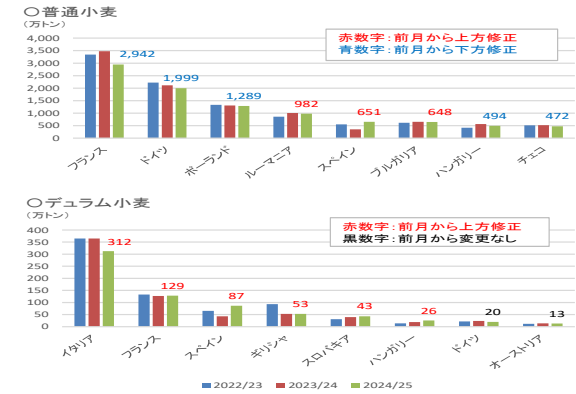
2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 2.2 百万トン下方修正され 11.4 百万トンと、生産量及び輸入量が減少すること等から前年度と比べ 40.7%減となる見込み。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	134.9	128.0 (127.8)	▲ 2.0	▲ 5.1
消費量	109.0	111.0	110.3 (111.0)	1.0	▲ 0.7
うち飼料用	45.0	46.5	46.0 (46.1)	1.5	▲ 1.1
輸 出 量	35.1	37.5	34.0 (32.7)	▲ 0.5	▲ 9.3
輸 入 量	12.2	13.0	11.0 (8.0)	1.0	▲ 15.4
期末在庫量	16.0	15.4	10.2 (11.4)	▲ 0.8	▲ 34.1
期末在庫率	11.1%	10.4%	7.0% (7.9%)	▲ 0.6	▲ 3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.40	24.31	23.10 (22.71)	▲ 0.25	▲ 5.0
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.54 (5.63)	▲ 0.03	▲ 0.2

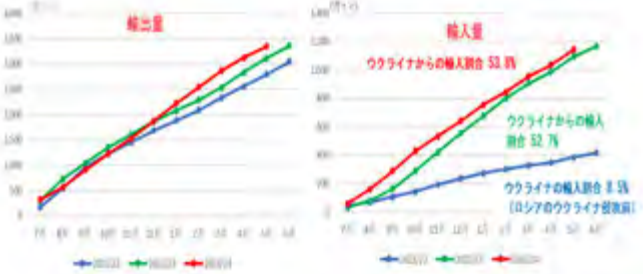
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(25 July 2024)

図 EU27 の普通小麦及びデュラム小麦生産量の推移



資料：EC 「EU cereals production ,area and yield」(2024.7.25)
をもとに農林水産省で作成

図 EU27 の小麦の輸出量及び輸入量



資料：EC 「EU trade for cereals」(2024.7.25)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の輸出量は前年度より 7.5 百万トン減少

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更はなく 83.0 百万トンと、前年度と比べ 9.3%減となるものの、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べれば 0.6%減に留まる見込み。種類別には、冬小麦が前月予測から 1.5 百万トン下方修正され 57.5 百万トンと、霜害と高温乾燥により前年度に比べ 10.2%減。春小麦は前月予測から 1.5 百万トン上方修正され 25.5 百万トンとなるものの、霜害と高温乾燥により同 7.3%減となる見込み。

ロシア統計庁によれば、2024/25 年度の作付面積は 2,850.6 万ヘクタール（前年度比 4.2%減）で、種類別には冬小麦が 1,613.4 万ヘクタール（同 3.1%増）、春小麦が霜害による大豆、菜種等への作付けの転換により 1,237.2 万ヘクタール（同 12.4%減）となっている。ロシア農業省によれば、8 月 9 日現在、小麦全体（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は 55.9%で収穫量は 5,835.0 万トンとなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 13.5%減となる見込み。他方で、競合する EU 及びウクライナの小麦生産量も減少することもあり、両国に比べ引き続き価格競争力を維持する可能性が高いと予想されており、過去 5 年平均（42.2 百万トン）に比べ 13.7%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月の輸出量は、319.9 万トンと、前年同期 413.3 万トンに比べ 22.6%減となっている。輸出先国別には、エジプト 42.1 万トン（13.2%）、モロッコ 34.2 万トン（10.7%）、バングラデシュ 25.3 万トン（7.9%）、ケニア 22.6 万トン（7.1%）、サウジアラビア 18.8 万トン（5.9%）の順。引き続き、アフリカや中東向けの輸出が多くなっている。

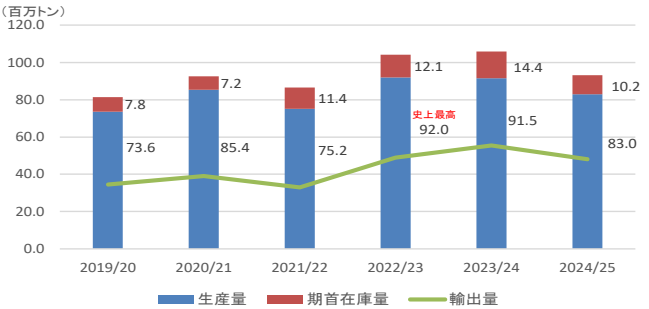
USDA によれば、8 月 9 日時点の FOB 価格は、ロシア産は前月に比べ 1 トン当たり 3 ドル上昇し 222 ドルとなるものの、豪州産 282 ドル、アルゼンチン産 272 ドル、カナダ産 260 ドル、米国産 252 ドル、EU 産 242 ドル、また、IGC によればウクライナ産は 199 ドルとなっており、ロシア及びウクライナ産は引き続き他国産と比べ高い価格競争力を維持している。なお、6 月 29 日、ロシア政府は輸出関税の算定基準となる基準価格について 1 万 7,000 ㌦から 1 万 8,000 ㌦に引き上げることを発表した（7 月 3 日から適用）。これにより実質的に輸出価格は下落し、ロシア産の価格競争力が更に増す可能性がある。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 6.7 百万トンと、前年度に比べ 33.9%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）
（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	92.0	91.5	83.0 (81.8)	-	▲ 9.3
消 費 量	41.0	40.5	38.8 (39.1)	-	▲ 4.3
うち飼料用	18.0	17.5	16.0 (16.0)	-	▲ 8.6
輸 出 量	49.0	55.5	48.0 (43.3)	-	▲ 13.5
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	10.2	6.7 (9.4)	-	▲ 33.9
期末在庫率	16.0%	10.6%	7.8% (11.4%)	-	▲ 2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00 (28.00)	▲ 0.10	▲ 2.9
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.96 (2.92)	0.01	▲ 6.6
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 August 2024)、 IGC 「Grain Market Report」(18 July 2024)					

図 ロシアの小麦の生産量・期首在庫量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.8.12)をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年7月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	42.1	13.2	エジプト	868.3	16.1
モロッコ	34.2	10.7	トルコ	691.9	12.8
バングラデシュ	25.3	7.9	バングラデシュ	350.2	6.5
ケニア	22.6	7.1	アルジェリア	236.8	4.4
サウジアラビア	18.8	5.9	サウジアラビア	224.8	4.2
イスラエル	15.4	4.8	カザフスタン	222.2	4.1
リビア	13.5	4.2	パキスタン	213.0	3.9
その他	148.0	46.3	その他	2,602.1	48.1
計	319.9	100.0	計	5,409.3	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2024/25 年度の生産量は上方修正され 21.6 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、収穫面積が引き上げられたことを受け前月予測から2.1百万トン上方修正され21.6百万トンとなるものの、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ6.1%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても22.7%減となる見込み。

ウクライナ穀物協会（2024.7.31）によれば、2024/25年度の生産量は、5月予測から0.7百万トン上方修正され19.8百万トンとなる見込み。

ウクライナ国家統計庁（2024.7.31）によれば、2024/25年度の作付面積は486.1万ヘクタールと、前年度と比べ4.2%増。このうち、冬小麦は468.8万ヘクタールと、同4.8%増。春小麦は17.2万ヘクタールと、同10.7%減。また、ウクライナ農業政策食料省によれば、8月8日現在の小麦全体（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は97.4%と前年同期の82.4%を上回っており、収穫面積は473.3万ヘクタール、収穫量は2,093.5万トンとなっている。

【貿易状況・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の上方修正による輸出余力の増加等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され14.0百万トンとなるものの、生産量の減少等により前年度と比べ23.9%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても22.7%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25年度のうち2024年7月の輸出量は154.5万トンと、前年同期82.4万トンに比べ87.5%増となっているが、2023年7月のロシアの黒海穀物イニシアティブ離脱を受け同月の輸出量が減少したことが要因。また、2023/24年度（2023年7月～2024年6月）の輸出量は1,840.6万トンと、生産量の増加及び臨時回廊による輸出が順調に推移したことから前年度1,693.8万トンに比べ8.7%増、ロシアのウクライナ侵攻前の2020/21年度1,664.1万トンと比べても10.6%増となっている。輸出先国別には、スペイン（32.0%）、エジプト（9.4%）、インドネシア（8.2%）の順で、スペイン向けシェアが高くなっている。これは、スペインにおいて乾燥天候による生産量の減少や飼料用小麦需要の増加等の影響が出ていることによる。

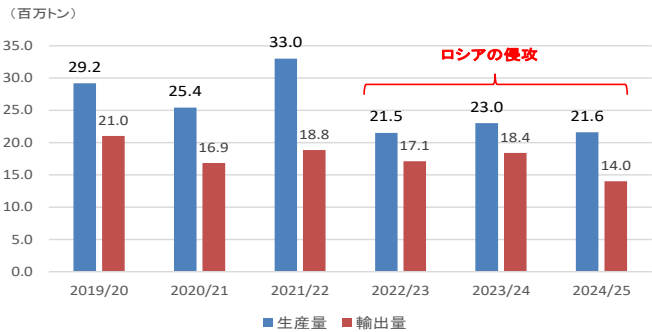
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測から0.1百万トン上方修正され1.1百万トンと、前年度に比べ36.4%増となるものの、史上3番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	21.5	23.0	21.6	(23.4)	2.1	▲ 6.1
消費量	7.8	6.8	7.4	(10.4)	0.7	8.8
うち飼料用	3.0	2.0	2.5	(1.9)	0.5	25.0
輸出量	17.1	18.4	14.0	(13.0)	1.0	▲ 23.9
輸入量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	-	14.3
期末在庫量	2.9	0.8	1.1	(0.9)	0.1	36.4
期末在庫率	11.6%	3.1%	4.9%	(4.0%)	0.03	1.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20	(5.80)	0.50	3.8
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.15	(4.04)	-	▲ 9.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC 「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 ウクライナの小麦の生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.8.12)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2024年7月			2023年7月～2024年6月		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	28.3	18.3	スペイン	589.9	32.0
エジプト	21.5	13.9	エジプト	172.1	9.4
アルジェリア	18.2	11.8	インドネシア	151.5	8.2
インドネシア	17.8	11.5	トルコ	107.8	5.9
ベトナム	13.8	8.9	ルーマニア	100.1	5.4
イエメン	8.5	5.5	パキスタン	81.4	4.4
レバノン	8.0	5.2	ベトナム	75.1	4.1
モロッコ	6.9	4.5	バングラデシュ	73.7	4.0
タイ	6.5	4.2	イタリア	67.7	3.7
チュニジア	5.2	3.4	アルジェリア	63.3	3.4
その他	19.8	12.8	その他	358.0	19.5
合計	154.5	100.0	合計	1,840.6	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の小麦の輸入量は前年度より 1.6 百万トン減少

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.0 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去 5 年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」（2024.8.5）によれば、7 月 28 日～8 月 3 日における春小麦の生育状況は、開花期から登熟期を迎えている。なお、冬小麦はほぼ収穫が完了している。

中国国家统计局によれば、2024/25 年度の小麦の作付面積は 23.09 百万ヘクタールと、前年度に比べ 0.1%増（3.2 万ヘクタール増）となる見込み。単収は 5.99 トン/ヘクタールと、前年度と比べ 2.6%増。生産量は 138.2 百万トンと、前年度と比べ 2.7%増となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレード国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均（146.1 百万トン）と比べると 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 12.0 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから、前年度に比べ 12.0%減少する見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1 月から 6 月までの輸入量は 928.0 万トンと、前年同期に比べ 15.8%増加している。輸入先別には、豪州 315.6 万トン（34.0%）、フランス 229.6 万トン（24.7%）、カナダ 186.1 万トン（20.1%）、米国 144.0 万トン（15.5%）で、フランス、カナダ及び米国の輸入シェアが前年同期から増加した一方、豪州の輸入シェアは、2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 63.2%から 34.0%に減少している。

現地情報会社によれば、国内産小麦（広州黄埔港の高品質小麦）と外国産小麦（米国メキシコ湾出しの硬質系小麦（関税割当枠内））の価格を比較した場合、2023 年 8 月以降は、2023/24 年産の収穫前の降雨で国内産小麦の品質が低下し高品質小麦の需給が逼迫したことから、国内産小麦の価格が外国産小麦を上回っていたものの、2024/25 年産冬小麦の収穫を受け 2024 年 6 月は国内産小麦の価格が外国産小麦を下回ったことから今後の輸入量に影響を与える可能性がある。

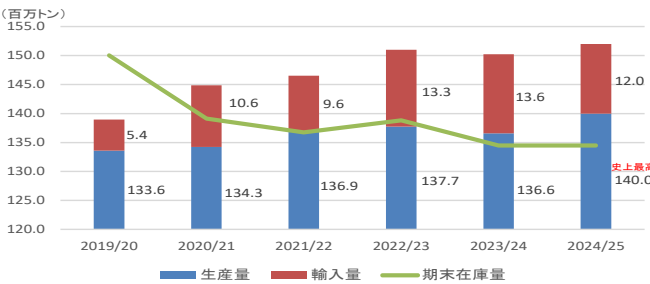
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.01 百万トン下方修正され 134.5 百万トンと、前年度並みとなる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	137.7	136.6	140.0 (140.0)	-	2.5	
消 費 量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	▲ 1.6	
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	▲ 10.8	
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	0.1	▲ 3.8	
輸 入 量	13.3	13.6	12.0 (10.7)	-	▲ 12.0	
期末在庫量	138.8	134.5	134.5 (143.0)	▲ 0.01	-	
期末在庫率	93.2%	87.0%	88.5% (96.7%)	▲ 0.1	1.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70 (23.65)	-	0.3	
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91 (5.92)	-	2.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC 「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 中国の小麦の生産量・輸入量・期末在庫量の推移



資料：USDA「PS&D」(2024. 8. 12)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

国 名	2024年1月～6月		2023年1月～6月		2023年1月～2023年12月	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
豪州	315.6	34.0	506.0	63.2	693.9	57.4
フランス	229.6	24.7	82.0	10.2	82.5	6.8
カナダ	186.1	20.1	133.2	16.6	254.8	21.1
米国	144.0	15.5	54.8	6.8	92.6	7.7
カザフスタン	30.7	3.3	15.9	2.0	51.9	4.3
ロシア	20.2	2.2	5.7	0.7	28.5	2.4
その他	1.6	0.2	3.4	0.4	5.7	0.5
計	928.0	100.0	801.0	100.0	1,209.9	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量

前年度比

前月比

・米国等で上方修正されたものの、EU、セルビア、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。

消費量

前年度比

前月比

・インド、ジンバブエ等で上方修正されたものの、EU、ロシア、イラン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量

前年度比

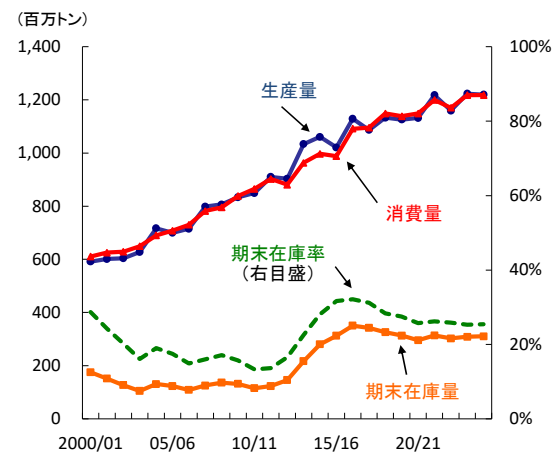
前月比

・米国等で上方修正されたものの、ウクライナ、EU、セルビア等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量

前年度比

前月比



資料：USDA「PS&D」(2024. 8. 12)をもとに農林水産省にて作成。

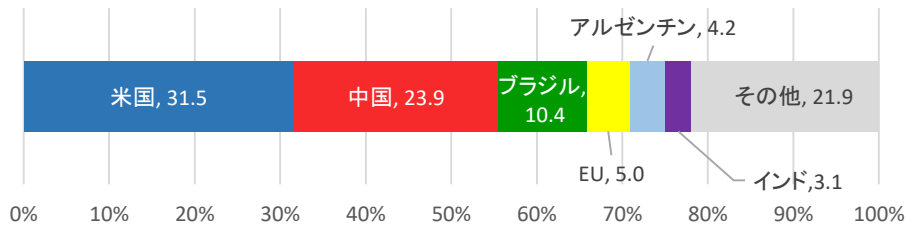
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

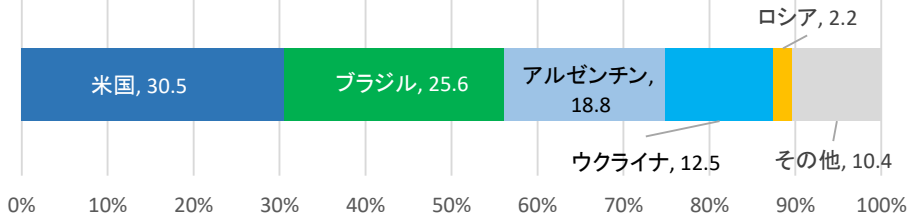
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,159.7	1,223.8	1,219.8	▲ 5.0	▲ 0.3
消費量	1,170.7	1,218.1	1,218.2	▲ 4.1	0.005
うち飼料用	734.6	765.0	772.8	▲ 2.0	1.0
輸出量	180.2	200.6	191.5	▲ 0.3	▲ 4.5
輸入量	173.4	188.3	185.9	▲ 0.7	▲ 1.3
期末在庫量	302.8	308.5	310.2	▲ 1.5	0.5
期末在庫率	25.9%	25.3%	25.5%	▲ 0.03	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2024)

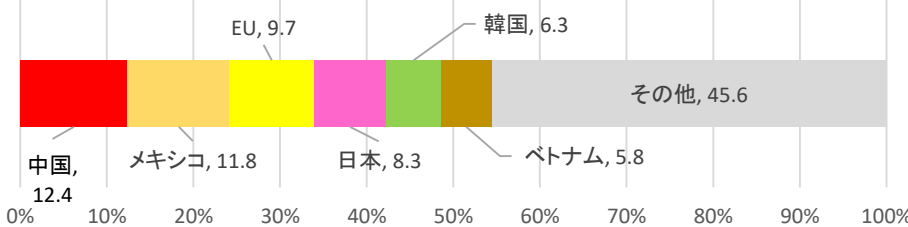
○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,219.8 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.5 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸入量(185.9 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 単収の引上げにより、生産量は1.2百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、今年度第1回目の作柄実績調査を受け、単収が前月予測から0.13トン/ヘクタール引き上げられたため、前月予測から1.2百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少（対前年度比4.4%減）を受け、史上最高の前年度より1.3%減の384.7百万トンの見通し。作付け時の価格は前年度に史上最高の豊作となったとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.8.12）によれば、ドウ（ミルク状の穀粒が徐々に柔らかい固まりになっていく段階）進捗率は60%と、前年同期並みで、過去5年平均（56%）を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は67%であり、乾燥の影響を受けた前年同期（59%）を上回っている。9月以降、成熟期を迎えるとみられる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、食用等需要の引下げを受けて前月予測から0.4百万トン下方修正されたものの、安価なとうもろこし価格から飼料需要が増加したことを受けて、前年度に比べ0.4%増の321.7百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、米国産が安価な価格競争力を有する見通しを受けて前月予測から1.9百万トン上方修正され、前年度より2.2%増の58.4百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.8.12）によれば、米国産の輸出価格は、8月7日現在、182ドル/トンと、ブラジル産（192ドル/トン）、アルゼンチン産（184ドル/トン）を下回っている。なお、2023年9月～2024年7月の輸出量は4,532万トンと、2023/24年度の豊作を受けて前年同期の2,898万トンより56%増。主な輸出先は、メキシコ（1,444万トン）、中国（979万トン）、日本（687万トン）の順。

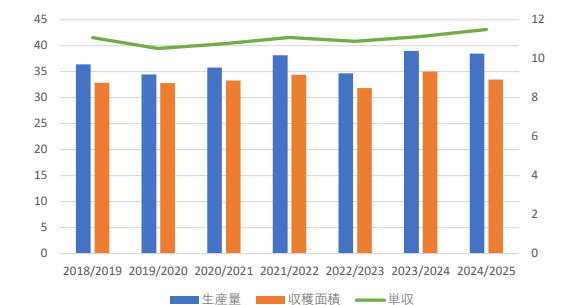
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、輸出量の引上げを受けて前月予測から0.6百万トン下方修正されたものの、高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より11.1%増の52.7百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より1.3ポイント上昇し13.9%と、過去5年平均（10.9%）を上回っている。

とうもろこし－米国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.7	389.7	384.7	1.2	▲ 1.3
消費量	305.9	320.4	321.7	▲ 0.4	0.4
うち飼料用	139.3	146.7	148.0	—	0.9
エタノール用等	131.5	138.4	138.4	—	—
輸出量	42.2	57.2	58.4	1.9	2.2
輸入量	1.0	0.8	0.6	—	▲ 15.8
期末在庫量	34.6	47.4	52.7	▲ 0.6	11.1
期末在庫率	9.9%	12.6%	13.9%	▲ 0.2	1.3

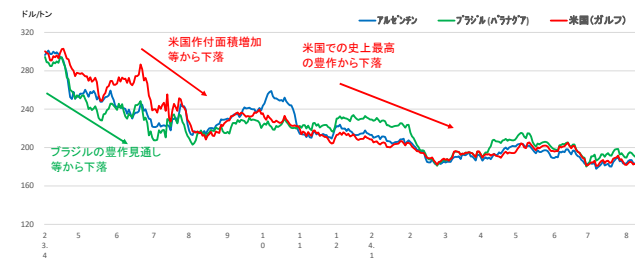
(参考)
収穫面積(百万ha) 31.85 35.01 33.47 ▲ 0.30 ▲ 4.4
単収(t/ha) 10.89 11.13 11.49 0.13 3.2
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)

図 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(千万t,百万ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」（2024.8.12）をもとに農林水産省にて作成。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし
輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は 4.1%増加の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上第 2 位の生産量となる見通し。エルニーニョ現象が収束し、ラニーニャ現象に移行する見込みもあり、収穫面積は増加する可能性がある。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.8.13）によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、大豆への作付けシフトによる作付面積の減少や生育初期の高温乾燥等による単収の低下から前年度比 12.3%減の 115.6 百万トンの見込み（P.23 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。夏とうもろこしは、エルニーニョ現象による南部での降雨過多の影響等により、前年度比 16.1%減の 23.0 百万トンの見込み。夏とうもろこしの収穫進捗率は 7 月末時点で 99%となり、8 月上旬に収穫は完了する見通し。冬とうもろこしは、中西部の高温乾燥の影響を受け、前年度比 11.3%減の 92.7 百万トンの見込み。8 月 5 日現在、南部パラナ州における冬とうもろこしの収穫進捗率は 92%と、前年同期（28%）を上回っている。なお、降雨があった場合、粒が完全に乾燥するまで収穫を待つ必要があり、本年は 8 月上旬に高温乾燥が広がったため、収穫が進展したとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物消費の増加を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.3%増の 80.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量（前年度の期末在庫量と本年度の実産量の合計）の減少を受けて前年度より 2.0%減の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～7 月の輸出量は 11.9 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 25%減。内訳は、中国（1.6 百万トン）、エジプト（1.6 百万トン）、アルジェリア（1.1 百万トン）の順。なお、とうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡し、冬とうもろこしの収穫を受け本格化し始めている。

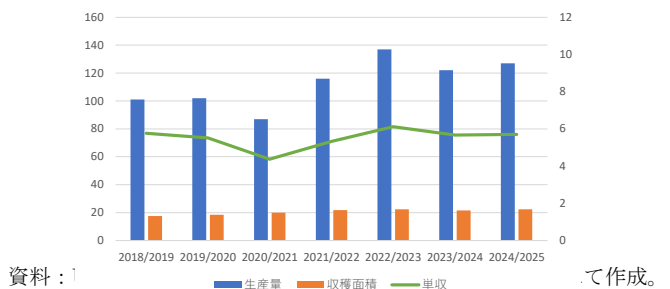
とうもろこし－ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	137.0	122.0	127.0 (124.6)	-	4.1	
消 費 量	78.0	79.5	80.5 (82.7)	-	1.3	
うち飼料用	61.5	63.0	64.0 (56.9)	-	1.6	
輸 出 量	54.3	50.0	49.0 (43.0)	-	▲ 2.0	
輸 入 量	1.3	1.3	1.5 (2.0)	-	15.4	
期末在庫量	10.0	3.8	2.8 (5.0)	-	▲ 26.0	
期末在庫率	7.6%	3.0%	2.2% (4.0%)	-	▲ 0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30 (20.84)	-	3.7	
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70 (5.98)	-	0.5	

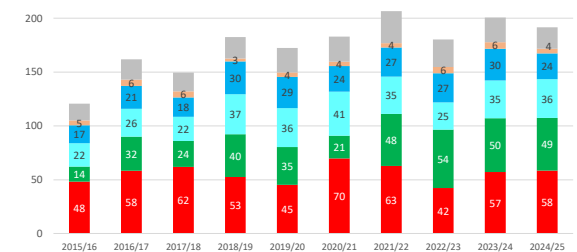
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万t,百万ha)



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC「Grain Market Report」(18 July 2024)にて作成。

図 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
(ブラジルは米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国)



資料：USDA「PS&D」(2024.8.12)をもとに農林水産省にて作成。

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 8 月下旬以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均より 3.0%増の 51.0 百万トンの見込み。ヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が増加すると見込まれることによる。

USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、アルゼンチン政府の収穫報告における単収が予想を下回ったことを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正されたものの、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 39%増の 50.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度並みの 14.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 2.9%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～6 月の輸出量は 1747.6 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（1,059.2 万トン）比で 65%増となった。内訳は、ベトナム（334.2 万トン）、ペルー（189.6 万トン）、アルジェリア（189.4 万トン）の順。

現地情報によれば、7 月に、中国の国有企業の COFCO（中糧集団）が、アルゼンチン産とうもろこしの中国向けの出荷を準備しており、輸出されれば 15 年ぶりの中国向け輸出再開となる。

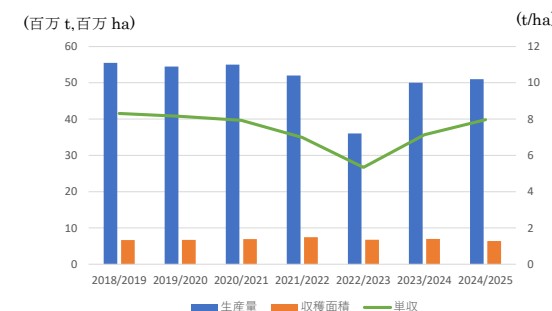
前年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の 1 ドル＝350 ペソから 1 ドル＝800 ペソに引き下げた。また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げ、これを継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	36.0	50.0	51.0 (54.0)	-	2.0	
消費量	14.2	14.8	14.8 (20.2)	-	-	
うち飼料用	10.0	10.4	10.3 (15.0)	-	▲ 1.0	
輸 出 量	25.2	35.0	36.0 (34.0)	-	2.9	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	1.3	1.5	1.7 (1.6)	-	13.0	
期末在庫率	3.3%	3.1%	3.4% (3.0%)	-	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.75	7.00	6.40 (8.10)	-	▲ 8.6	
単収(t/ha)	5.33	7.14	7.97 (6.79)	-	11.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC 「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.8.12) をもとに農林水産省にて作成。

表 アルゼンチンのとうもろこし輸出量と輸出先国

2024年6月		2024年1月～6月	
国名	輸出量	国名	輸出量
ベトナム	46.4	ベトナム	334.2
ペルー	30.2	ペルー	189.6
アルジェリア	28.2	アルジェリア	189.4
計	233.5	計	1,747.6

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）をもとに
農林水産省にて作成。

＜ ウクライナ ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 16.3%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、単収が予想を下回ったことを受けて前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 14.3%減）する見込みを受け、前年度より 16.3%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 35.4%減の 27.2 百万トンとなる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、6 月 6 日時点で作付けは完了。生育ステージは概ね乳熟期を迎えている。

USDA によれば、8 月上旬、ウクライナ北部や西部で降雨があり、単収見通しが維持された一方、南部及び南東部で干ばつが続いており、単収見通しが引き下げられた。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減を受けて前年度より 4.7%減の 4.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引下げを受けて前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、供給減や EU での増産による輸入需要の減少を受け、前年度より 18.6%減の 24.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の実産量は、ウクライナ国家統計庁のデータを受けて前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、前年度より 8.9%増の 29.5 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 7 月の輸出量は 2,738 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、黒海穀物イニシアティブ履行時の前年同期比で 7.9%増。輸出先国は、スペイン（609.4 万トン）、中国（461.9 万トン）、エジプト（361.3 万トン）、オランダ（250.0 万トン）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の実産量の引上げ等を受けて前月予測から 0.05 百万トン上方修正されたものの、減産による供給減から前年度より 53.2%減、侵攻前の 5 か年平均より 75%減の 0.7 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.0 ポイント減の 2.6%と、2018/19 年度以来の低水準となる見込み。

とうもろこし-ウクライナ

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	27.0	32.5	27.2 (27.2)	▲ 0.5	▲ 16.3
消費量	4.9	4.3	4.1 (5.0)	-	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.1 (3.5)	-	▲ 6.1
輸出量	27.1	29.5	24.0 (23.0)	▲ 0.5	▲ 18.6
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.8	1.6	0.7 (0.7)	0.05	▲ 53.2
期末在庫率	8.7%	4.6%	2.6% (2.5%)	0.2	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.06)	0.20	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.63 (6.71)	▲ 0.47	▲ 14.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC 「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
(2024/25 年度の実産量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し)

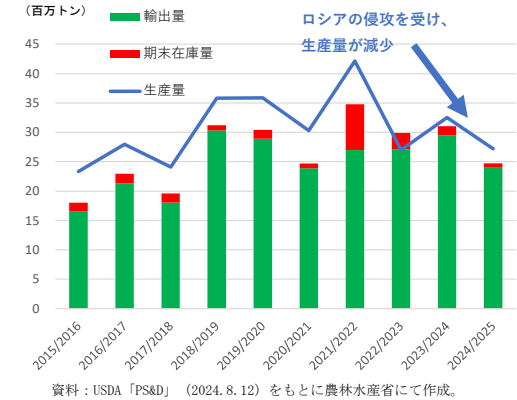


表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

	2024年7月		2023年10月～2024年7月	
	国名	輸出量	国名	輸出量
1	スペイン	25.1	スペイン	609.4
2	オランダ	23.7	中国	461.9
3	イタリア	21.5	エジプト	361.3
4	エジプト	12.8	オランダ	250.0
5	ドイツ	12.3	イタリア	233.1

資料：ウクライナ国家統計局のデータを基に農林水産省にて作成。

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

USDA によれば、8 月上旬、主産地の黒竜江省等では降雨があり、生育に好影響を与えるとみられる。一方、7 月に洪水となった河南省等では降雨過多が続いており、作柄への影響が懸念されている。

全国農業気象月報（2024.8）によれば、7 月末現在、主産地の黒竜江省では概ね絹糸抽出期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大し、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、ブラジル産及びウクライナ産への堅調な需要が続くことから、前年度並みの 23.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～6 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 8.2%減の 1,105.0 万トンの見込み。内訳は、ブラジル（576.5 万トン）、ウクライナ（361.2 万トン）、米国（138.1 万トン）の順。

報道情報によれば、河北省において、とうもろこしの代替品として、小麦や玄米等の需要が徐々に高まっている。とうもろこし代替品として試験的に小麦や玄米を購入し、飼料への加工を行い、一定比率での購入に徐々に移行している企業もあるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 6 月号」によると、6 月の国内価格は、河北省等における干ばつによる減産懸念を受けて、2,500 元/トンと前月（2,460 元/トン）から小幅に上昇した。

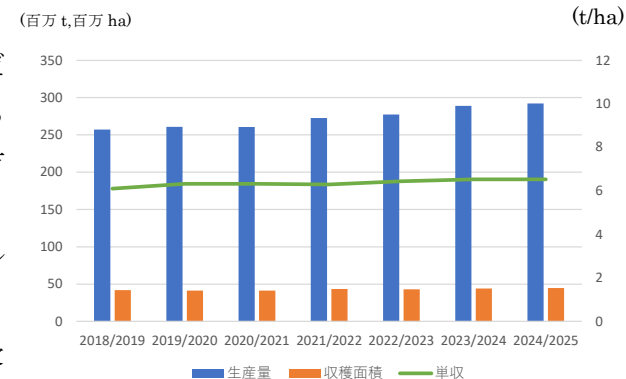
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度より 0.9%増の 212.8 百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	277.2	288.8	292.0 (296.0)	-	1.1
消 費 量	299.0	307.0	313.0 (315.7)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.0	23.0 (19.1)	-	-
期末在庫量	206.0	210.9	212.8 (179.6)	-	0.9
期末在庫率	68.9%	68.7%	68.0% (56.9%)	-	▲ 0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.20)	-	1.1
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.70)	-	-

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC 「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.8.12) をもとに農林水産省にて作成。

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

2024 年 1～6 月			2023 年 1 月～2023 年 12 月			2022 年 1 月～2022 年 12 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	576.5	52.2	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	361.2	32.7	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	138.1	12.5	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	8.3	0.8	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.7	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
南アフリカ共和国	5.6	0.5	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	7.7	0.6	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,105.0	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ベトナム、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

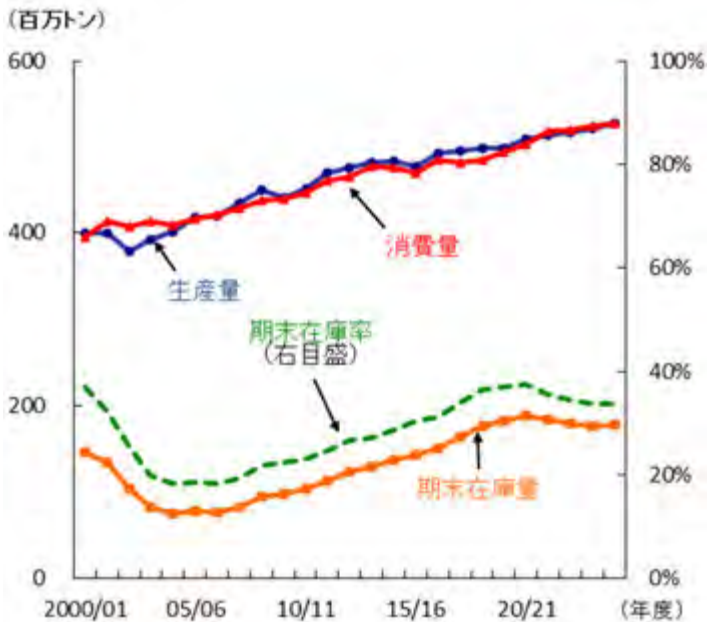
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジル等で上方修正されたものの、フィリピン、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ベトナム、ブラジルで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024. 8. 12)をもとに農林水産省にて作成

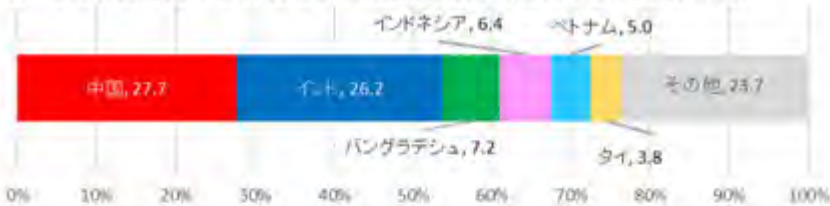
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

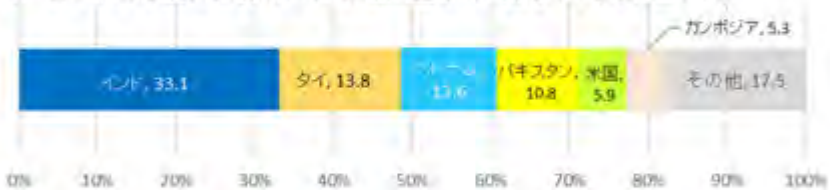
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	516.0	520.4	527.7	▲ 0.5	1.4
消 費 量	520.0	523.5	527.0	▲ 0.3	0.7
輸 出 量	54.6	54.5	54.4	▲ 0.2	▲ 0.2
輸 入 量	56.6	51.1	50.9	0.04	▲ 0.5
期末在庫量	179.7	176.7	177.4	▲ 0.7	0.4
期末在庫率	34.6%	33.8%	33.7%	▲ 0.1	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August, 2024)

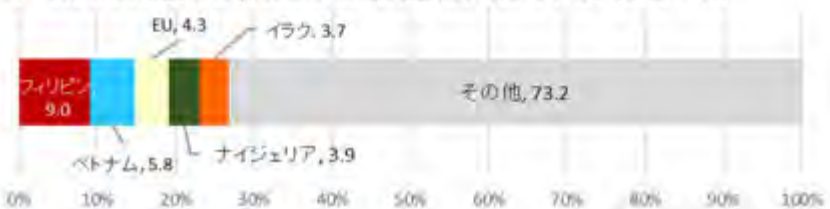
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(527.7百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(54.4百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(50.9百万トン)(単位：%)



（２） 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、20.1 百万トンの見込み。雨期の開始が遅れ降雨量が少なかった 2023 年に比べ、2024 年は平年通りの雨期（例年 5 月～10 月）となり収穫面積の回復が見込まれることから、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。

一方、タイ農業協同組合省農業経済局によれば、2024/25 年度の雨季米の作付面積は前年度の 995 万ヘクタールから僅かに減少し 994 万ヘクタールの見込み。タイ北部で良好な天候により作付面積が増加するが、同東北部や中部でサトウキビやキャッサバへの転作からコメの作付面積が減少する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.8）によれば、雨季米の作付進捗率は約 88%となっており、生育段階は分けつ期に入っている。7 月、タイ北部及び北東部では、熱帯性暴風雨により一部地域で洪水が発生したものの、ほとんどの地域で、十分な降水量と日照により、生育状況は良好で生産量の増加が見込まれている。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.8.13）によると、8 月上旬、乾燥傾向であった北部ではモンスーンによる降雨が続く主要貯水池の水量は十分となった。北東部では 7 月の暴風雨後、8 月上旬は乾燥天候が続いているものの、コメ等の作物にとって適度な土壌水分量が保たれている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度（2024 年 1 月～12 月）の輸出量は、6 月までの輸出ペースが予想を上回り、サハラ以南のアフリカ向けが増加したことを受け、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 8.8 百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024 年 1～6 月の輸出量は、前年同期比 25.3%増の 508.0 万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の 60.8 万トンから 71.2%増加し、104.1 万トンと輸出先国の中で最大となった。

タイ政府は、2024 年上半期の輸出実績に加え、インドのコメの輸出制限の継続、パーツ安によるタイ産米の国際価格競争力の維持、フィリピン及びインドネシアの需要増加等により、引き続き好調な輸出を見込み、2024 年の輸出目標を 800 万トンから 820 万トンに上方修正した。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 7.5 百万トンと、前年度から 14.8%減少する見込み。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年 1 月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5
消 費 量	12.5	12.5	12.6 (12.7)	-	0.8
輸 出 量	8.7	8.8	7.5 (8.0)	-	▲ 14.8
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	3.9	2.7	2.8 (3.1)	▲ 0.1	3.8
期末在庫率	18.1%	12.4%	13.7% (15.0%)	▲ 0.5	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August, 2024)
IGC「Grain Market Report」(18 July, 2024) (単収は精米t/ha)

表：タイの国別輸出量

(単位：万トン)

国名		2023年 1-6月	2024年 1-6月	前年同期比(%)
1	インドネシア	60.8	104.1	71.2
2	イラク	63.5	50.4	-20.6
3	米国	34.4	40.1	16.7
4	フィリピン	6.3	28.8	357.3
5	南アフリカ	40.9	36.7	-10.2
6	コートジボワール	2.9	23.7	717.0
7	モザンビーク	9.1	18.0	97.4
8	中国	18.8	15.8	-15.9
計		405.6	508.0	25.3

資料：タイ関税局（2024.7）

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実産量は、単収の低下を受け、前月予測から僅かに下方修正され 7.0 百万トンの見込み。前年度に比べ収穫面積の増加から、生産量は 1.2%増となり 2020/21 年以来、最大となっている。

同「Crop Production」（2024.8.12）によれば、2024/25年度の収穫面積は、1.17百万ヘクタールで、前年同期比で0.9%増。種類別の収穫面積は、前年度に比べ、長粒種は、アーカンソー州等で増加し、10.1 %増の0.91百万ヘクタール。中・短粒種は、アーカンソー州、カルフォルニア州で減少し、21.2%減の0.26百万ヘクタール。中・短粒種の主要生産地であるカリフォルニア州では、5月初旬の強い降雨による作付けの遅れや価格の下落を受け、前年度に比べ5.0%減の0.18百万ヘクタールの見込み。

同「Crop Progress」（2024.8.12）によれば、8月11日現在、出穂がほぼ終了し、収穫が進んでいる。主要生産6州の収穫進捗率は13%と前年同期並みで、過去5年平均を3ポイント上回っている。また、作柄を示す「やや良から良」の割合は79%と前年同期（67%）を12ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給量増加の見込みから、前年度比 1.8%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 1.5 百万トンと、引き続きタイ及びインドを中心に、アジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度を 2.8%上回り史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 3.2 百万トンと、輸出余力の増加から前年度に比べ 3.5%増加し、2017/18 年度以降で最高となる見込み。

種類別の輸出量は、前年度に比べ、長粒種は米国の豊富な輸出余力と価格競争力から中南米諸国向けが増加し 2017/18 年度以降最高となり、中・短粒種は供給量の増加と米国産の価格低下から増加する見込み。中・短粒種の主要輸出先は日本、韓国、台湾。

2023/24 年度（2023 年 8 月 1 日～2024 年 5 月 30 日）の輸出量は 3.1 百万トンで、主な輸出先国は、メキシコ（94.5 万トン）、ハイチ（36.8 万トン）、日本（31.3 万トン）の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫と生産量の引き下げから、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 1.4 百万トンとなるものの、前年度に比べ 13.9%増加する見込み。

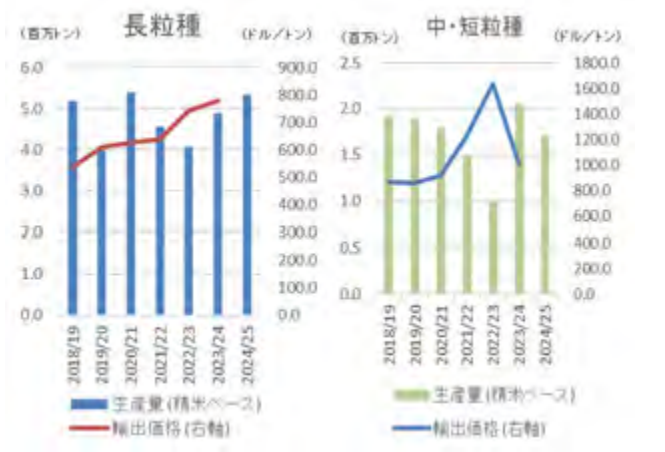
コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4 米国産米に占めるカリフォルニア産米のシェアは約 2 割

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8 月～25年 7 月)		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.1	6.9	7.0	▲ 0.03	1.2
消 費 量	4.6	5.0	5.1	-	1.8
輸 出 量	2.1	3.1	3.2	-	3.5
輸 入 量	1.3	1.4	1.5	-	2.8
期末在庫量	1.0	1.2	1.4	▲ 0.1	13.9
期末在庫率	14.4%	15.1%	16.8%	▲ 0.8	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(もみt/ha)	8.28	8.57	8.54	▲ 0.03	▲ 0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August, 2024)

図：米国の長粒種と中・短粒種の実産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」(2024. 8. 14) より。価格は年度内の平均価格。

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、146.0 百万トンと、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度に比べ 1.0%増の見込み。小麦やとうもろこしに比べて収益性が高いことや、政府の最低支持価格の上昇、二期作の推進を受け、収穫面積は増加する見込み。

全国農業気象月報（2024.8）によると、7 月、主産地である東北地域（黒龍江省、吉林省、遼寧省）では、一部で洪水の被害が生じたものの、多くの地域では気温が適切で平年同期より 1～2℃高く、日照、土壌水分とも十分で、一期作は順調に生長した。7 月末現在、江南地区（江蘇省南部から浙江省北部）の大部分で、晩稲が移植期であり、一部は分けつ期にある。華南地区（福建省、海南省、広東省）の大部分の晩稲は三葉期から移植期にある。

農業農村部「中国農業展望報告（2024～2033）」（2024.4）によれば、2024 年の中国の小麦の作付面積は 28.96 百万ヘクタールと前年並みの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 145.0 百万トン。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、食用需要が高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い減少することから、前年度比で 2.1%減少する見込み。消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、特に飼料用の国内消費量の減少や生産量の増加から、前年度比 2.0%減の 1.5 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸入量は、6 月の輸入量が、カンボジア、タイ、ベトナムを中心に予想を下回ったため、前月予測から下方修正され 1.5 百万トンと、前年度に比べ 34.9%減少の見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～6 月の輸入量は 72.0 万トン（前年同期比 59.8%減）で、輸入国別では、1 位ベトナム（シェア 29.8 %）、2 位ミャンマー（同 27.9%）、3 位タイ（同 27.5%）の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく 104.0 百万トンと、前年度に比べ 1.0%増の見込み。なお、期末在庫量は、2020/21 年度に史上最高の 116.5 百万トンに達したのち低下傾向となったものの、2024/25 年度は上昇に転じた。

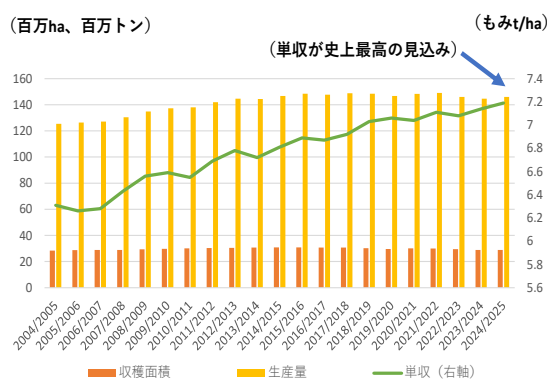
コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 7月～25年 6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消 費 量	155.0	148.1	145.0 (145.4)	-	▲ 2.1
輸 出 量	1.7	1.6	1.5 (1.7)	-	▲ 8.0
輸 入 量	4.4	1.5	1.5 (2.4)	-	▲ 2.0
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (101.7)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.8%	71.0% (69.1%)	-	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.00)	-	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19 (5.00)	-	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August, 2024)
IGC「Grain Market Report」(18 July, 2024)（単収は精米t/ha）

図： 中国の実産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2024/25 年度)



資料：USDA「PS&D」(2024. 8. 12)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、138.0 百万トンと、前年度比で 0.7%増加、過去 5 年平均比で 6.9%増加し、史上最高の見込み。

収穫面積は、インド政府発表の作付け進捗状況に基づき、前月予測から 0.5 百万ヘクタール減の 48.0 百万ヘクタールとなるものの、前年度に比べ 0.8%増加し、史上最高となる見込み。

インド政府農業農民福祉省によると、2024 年 8 月時点で、カリフ米の作付面積は前年より 5.28%増加し、27.69 百万ヘクタールである。多くの地域で非常に良好な天候に恵まれている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 120.0 百万トンと、前年度に比べ 2.1%の増加。

国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、豊作を受け、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

2023/24 年度の調達量は 52.5 百万トンと、インド全体の消費量の概ね半分に相当する。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量の増加を受け、前年度比 12.5%増の 18.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持しており、世界全体のコメ輸出総量の約 33%を占める。

2023/ 24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 16.0 百万トンと、前年度比 21.0%減。

インド輸出入統計によれば、2023 年 10 月から 2024 年 5 月までの輸出量は 10.1 百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア（101.3 万トン）、ギニア（67.4 万トン）、ベナン（66.5 万トン）の順。

サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。なお、インドは、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化している。

2024 年 2 月 21 日には、インド財務省は本年 3 月 31 日までの予定だったパーボイルド米の 20%の輸出関税を無期限に延長した(詳細は右表を参照)。なお、総選挙の結果、現政権が続投することとなり、インフレ抑制（目標は 2～6 %）等のため、輸出規制等の政策は継続の見込み。

インド食料公社（Food Cooperation of India）によれば、期末在庫量は、32.6 百万トンと前年度に比べ 28.7%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年 9 月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	135.8	137.0	138.0 (137.5)	-	0.7
消 費 量	114.5	117.5	120.0 (118.5)	-	2.1
輸 出 量	20.3	16.0	18.0 (17.3)	-	12.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	38.5	38.5 (41.9)	-	-
期末在庫率	26.0%	28.8%	27.9% (30.9%)	-	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.83	47.60	48.00 (48.50)	▲ 0.50	0.8
単収(もみt/ha)	4.26	4.32	4.31 (2.84)	0.04	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August, 2024)
IGC「Grain Market Report」(18 July, 2024) (単収は精米t/ha)

表：インドのコメ輸出規制(2022 年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)	(法定税率)
	最低輸出価格導入 (1,200ドル/トン→950ド ル/トンに引き下げ (2023.10.26～))	2023.8.27～
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～
バスマティ米・パーボ イルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～ 2024.12.31
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可。

※有機米は本措置の対象外。

資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

＜ ベトナム ＞ 2023/24 年度の生産量は、前年度に比べ 1.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、収穫面積の下方修正を受け、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 26.6 百万トンと、前年度に比べ 1.9%減少する見込み。

夏秋作と秋冬作は、2024 年春からの降雨量が平年を下回ったことから、特にメコンデルタ地方（南部）で単収が影響を受けた。また、紅河デルタ地域（北部）が主産地のムア作の作付けが 6 月に開始され、平均を上回る降水量に恵まれた。ムア作は 11 月に収穫が行われる。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.8）によると、①北部では、夏秋作（雨季米）は幼穂形成期及び作付期にあり、良好な天候と十分な灌漑用水の供給を受け、生育状況は良好である。②南部では、夏秋作（雨季米）が収穫期を迎え、作付面積 173 万ヘクタールのうち収穫面積は 55 万ヘクタールに達した。温暖な天候と十分な灌漑用水から生産量は前年度をやや上回る見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、26.5 百万トンと、前年度に比べ 0.5%減少する見込み。作付面積は、2016/17 年度以降、減少傾向にあり、その要因は、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）への生産のシフト等である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、8.3 百万トンと前年度に比べ 0.9%増加する見込み。2024/25 年度の実産量は、前年度からの生産量の減少で輸出余力が減少することから前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 7.4 百万トンと、前年度に比べ 10.8%減少する見込み。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2024.8.12）及び「Rice Outlook」（2024.8.12）によれば、ベトナム産米（長粒種、5 %碎米混入）の 8 月 6 日までの週の価格は、東南アジア諸国からの需要継続見込みから、前月の価格より 7 ドル/トン上昇し、559 ドル/トンとなった。

現地情報によれば、ベトナムの企業はインドネシア市場向けのコメ輸出入札で 10.4 万トンを落札。入札価格は 563 ドル/トンで、タイやパキスタン企業よりも低価格であった。

ベトナム産は、インドネシアの 2023 年（1～12 月）のコメ輸入量（306.3 万トン）の 37.5%（114.8 万トン）を占めた。ベトナム関税総局によれば、2024 年 1～7 月の輸出量は 529.9 万トンと、前年同期（489.3 万トン）に比べ 8.3%増加。主な輸出先国は、フィリピン（231.0 万トン、前年同期 19.4%増）、インドネシア（77.9 万トン、同 29.2 %増）、マレーシア（53.0 万トン、同 129.3%増）、中国（22.3 万トン、同 68.9%減）の順。

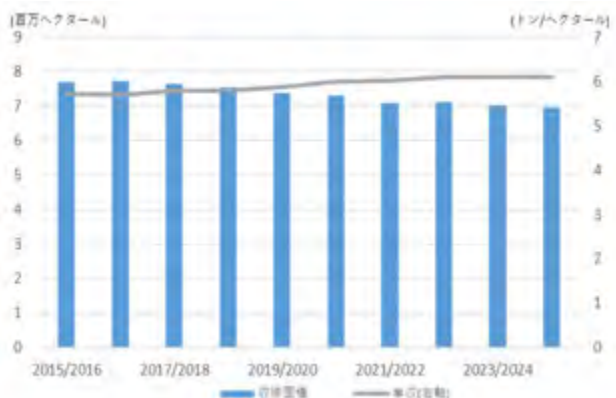
コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年 1 月～25年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.1	26.6	26.5 (28.6)	▲ 0.5	▲ 0.5	
消 費 量	21.9	22.0	22.0 (22.1)	▲ 0.1	-	
輸 出 量	8.2	8.3	7.4 (7.8)	▲ 0.1	▲ 10.8	
輸 入 量	2.8	2.6	3.0 (1.6)	-	13.5	
期末在庫量	2.6	1.6	1.6 (3.0)	▲ 0.6	3.2	
期末在庫率	8.7%	5.1%	5.4% (10.0%)	▲ 2.1	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.12	7.00	6.95 (7.20)	▲ 0.20	▲ 0.7	
単収(もみt/ha)	6.10	6.09	6.10 (3.97)	0.06	0.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August, 2024)
IGC 「Grain Market Report」(18 July, 2024)（単収は精米t/ha）

図：収穫面積の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024. 8. 12)をもとに農林水産省にて作成

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、ウクライナ、ロシア、インド等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

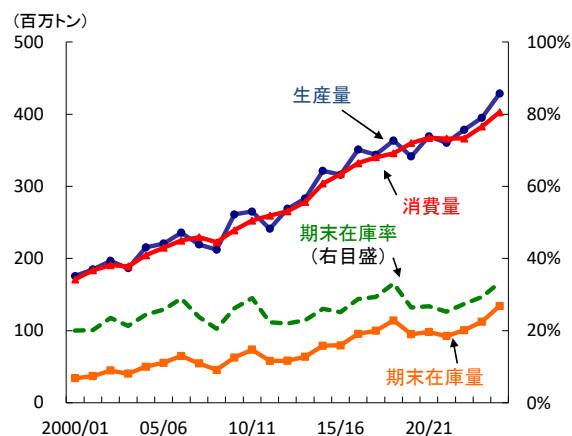
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・エジプト、EU、トルコ等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン等で下方修正されたものの、ウクライナ、ロシア、エジプト等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2024. 8. 12)をもとに農林水産省で作成

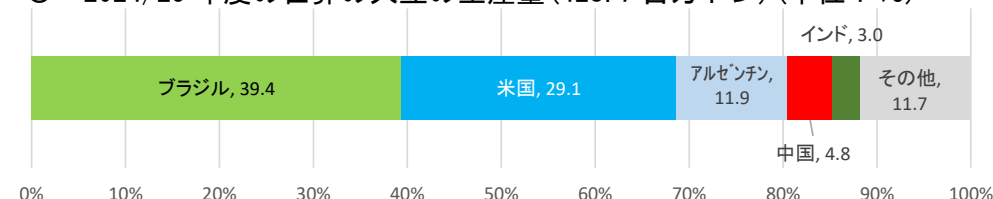
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

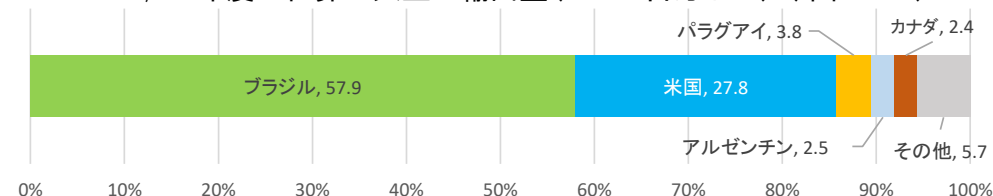
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.5	395.1	428.7	6.9	8.5
消費量	366.5	383.1	402.8	1.3	5.2
うち搾油用	315.4	329.7	346.6	0.9	5.1
輸出量	171.8	177.3	181.2	1.0	2.2
輸入量	167.8	176.9	177.3	0.9	0.2
期末在庫量	100.7	112.4	134.3	6.5	19.5
期末在庫率	27.5%	29.3%	33.3%	1.5	4.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2024)

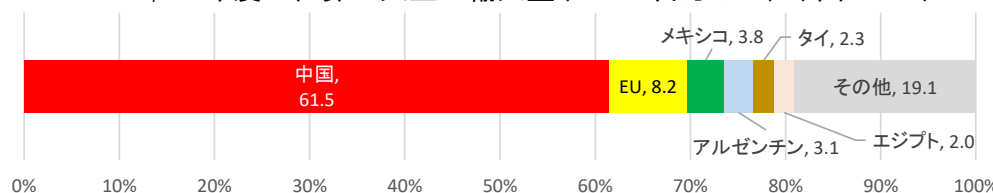
○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量 (428.7 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出量 (181.2 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量 (177.3 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

< 米国 > 作付面積と単収の引上げにより、生産量は4.2百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実生産量は、今年度第1回目の作柄実績調査を受けた単収の引上げ等を受け、前月予測から4.2百万トン上方修正され、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より4.2%増の124.9百万トンと史上最高の見通し。作付け時の価格が前年度に史上最高の豊作となったとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.8.12）によれば、開花進捗率は91%と、前年同期（93%）を下回ったものの、過去5年平均（90%）を上回っている。着莢率は72%と、前年同期（75%）を下回ったものの、過去5年平均（70%）を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は68%と、乾燥の影響を受けた前年同期（59%）を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、生産量の引上げを受けて前月予測から0.1百万トン上方修正され、バイオ燃料等需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より5.6%増の69.1百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の引上げを受けて前月予測から0.7百万トン上方修正され、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より8.8%増の50.4百万トンの見込み。

USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」（2024.8.12）によれば、米国大豆価格は、8月7日現在、生育に適した天候から作柄が良好であることを受けて前月から48ドル/トン下落し、405ドル/トンとなり、ブラジル産（412ドル/トン）を下回っている。なお、USDAによれば、2023年9月～2024年7月の輸出量は4,692万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の4,662万トンより0.6%増。内訳は中国（2,362万トン）、メキシコ（598万トン）、日本（322万トン）の順となっている。

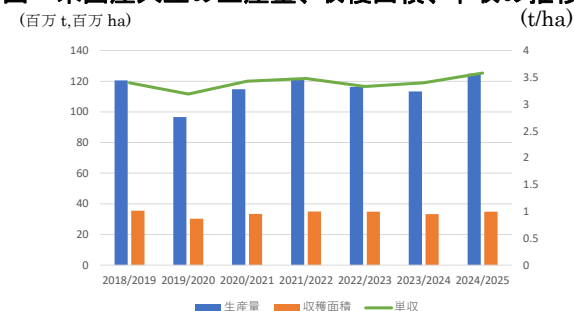
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の引上げを受けて前月予測から3.4百万トン上方修正され、前年度より62.4%増の15.3百万トンとなる見込み。期末在庫率は12.8%と、過去5年平均（8.0%）を上回り、2019/20年度以来5年ぶりに10%台まで回復する見通し。

大豆－米国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.2	113.3	124.9	4.2	10.2
消費量	63.3	65.4	69.1	0.1	5.6
うち搾油用	60.2	62.3	66.0	-	5.9
輸出量	53.9	46.3	50.4	0.7	8.8
輸入量	0.7	0.5	0.4	-	▲ 24.1
期末在庫量	7.2	9.4	15.3	3.4	62.4
期末在庫率	6.1%	8.4%	12.8%	2.8	4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.33	34.91	0.41	4.7
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.58	0.08	5.3

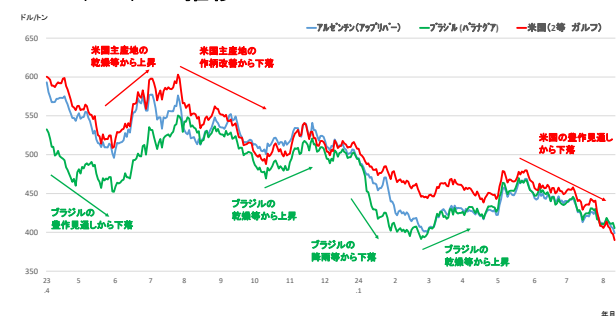
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 August 2024）

図 米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.8.12）をもとに農林水産省にて作成

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度より 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、本年10月以降作付けが開始される2024/25年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より10.5%増の169.0百万トンと史上最高の見通し。エルニーニョ現象が収束し、ラニーニャ現象に移行する見込みもあり、収穫面積は増加する可能性もある。

CONABの月例報告(2024.8.13)によれば、2023/24年度の実産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より4.7%減の147.4百万トンの見通し。6月中旬に収穫は完了。

6月上旬、南部のリオ・グランデ・ド・スール州において、多雨により洪水が発生した。EMATER/RSの報告(2024.6.4)によれば、同州での大豆の生産損失は2.7百万トンの見込み。CONABの月例報告(2024.8.13)によれば、同州の実産量は、洪水発生前の4月見通しから2.2百万トン下方修正されたものの、南部での干ばつの影響を受けた前年度より51.0%増の19.7百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、引き続き堅調な搾油用需要から前年度より0.4%増の58.1百万トンとほぼ横ばいの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、レアル安による価格競争力と中国からの引き続き堅調な需要から、前年度並みの105.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024年1～7月の輸出量は75.4百万トンで、前年同期(72.5百万トン)に比べ4.0%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国(55.2百万トン)、スペイン(3.0百万トン)、トルコ(2.2百万トン)の順。なお、大豆は輸出最盛期を迎えている。

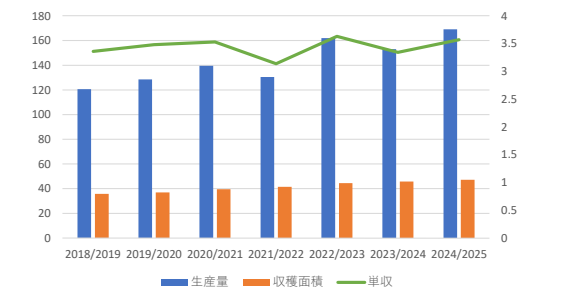
2023年6月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

大豆－ブラジル

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	162.0	153.0	169.0 (161.5)	-	10.5
消費量	57.2	57.9	58.1 (57.3)	-	0.4
うち搾油用	53.4	54.0	54.0 (54.3)	-	-
輸 出 量	95.5	105.0	105.0 (102.2)	-	-
輸 入 量	0.2	0.9	0.2 (0.5)	-	▲ 82.4
期末在庫量	36.8	27.8	33.9 (3.8)	▲ 1.9	21.7
期末在庫率	24.1%	17.1%	20.8% (2.4%)	▲ 1.2	3.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.60	45.80	47.30 (41.49)	-	3.3
単収(t/ha)	3.63	3.34	3.57 (3.89)	-	6.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移
(百万t,百万ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」(2024.8.12)をもとに農林水産省にて作成。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2023/24年度の実産量は、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年				2024年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 4.0(百万ha)				収穫 23.0(百万t) → 収穫夏冬作計 115.6百万t								
冬とうもろこし (マット・グロソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.0百万ha				作付 17.0(百万ha) → 収穫 92.7(百万t)								
大豆 (マット・グロソ州、 パラナ州等)	作付 46.0(百万ha)				収穫 147.4(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート (2024. 8. 13)

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前年度より 1.7%増加する見込み（AAFC）

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2024.8.20）によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.7%増の 7.1 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕需要と輸出は堅調であり、生産量は微増するとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。なお、USDAによれば、8 月上旬、降雨があり、生育に好影響を与えている。

カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2024」（2024.6.27）によれば、作付面積は前年度より 2.0%増の 2.32 百万ヘクタールと、過去 5 年平均を上回り、2018 年以来の高水準の見通し。主要生産州において、とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたとみられる。

なお、カナダの大豆生産は、小麦やなたねと異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアがある。オンタリオ州に隣接するマニトバ州及びケベック州でも生産されている。オンタリオ州では、概ね莢伸長期を迎えている。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用等の需要の減少により前年度から 1.4%減の 2.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増の 5.0 百万トンの見込み。主要な輸出先国である中国において、搾油用需要増に伴い、中国の輸入量が増加することが要因の一つとみられる。

カナダ穀物委員会によれば、2023/24 年度（2023 年 8 月～2024 年 7 月）の 2023 年 8 月～2024 年 6 月の輸出量は 330.2 万トンで、前年同期（317.6 万トン）を上回っている。国別では、中国（143.9 万トン）が 40%以上のシェアを占め、次いでアルジェリア（54.9 万トン）、イラン（54.6 万トン）、オランダ（18.5 万トン）の順となっている。

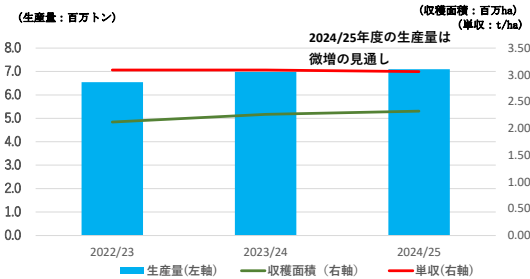
AAFCによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度から 25.3%増の 0.5 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年8月～25年7月）		
			予測値、〇はAAFC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	6.5	7.0	6.9 (7.1)	-	▲ 1.2
消 費 量	2.7	2.8	2.8 (2.4)	-	-
うち搾油用	1.8	1.8	1.7 (1.9)	-	▲ 5.7
輸 出 量	4.2	4.7	4.3 (5.0)	-	▲ 7.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.5)	-	14.3
期末在庫量	0.4	0.3	0.6 (0.5)	-	83.1
期末在庫率	5.3%	4.1%	7.8% (7.0%)	-	3.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.30 (2.32)	-	1.8
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.00 (3.06)	-	▲ 2.9

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」（12 August 2024）
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（20 August 2024）

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」
（2024.8.20）をもとに農林水産省にて作成。

表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

2023/24年度			2022/23年度		
(2023年 8 月～2024年 6 月)			(2022年 8 月～2023年 6 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	143.9	43.6	中国	128.8	40.5
アルジェリア	54.9	16.6	イラン	49.0	15.4
イラン	54.6	16.5	アルジェリア	36.5	11.5
オランダ	18.5	5.6	イタリア	27.5	8.6
その他	58.4	17.7	その他	75.9	23.9
計	330.2	100.0	計	317.6	100.0

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省にて作成。

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目の見込み。

USDA によれば、主産地の東北部の黒竜江省等では降雨があり、大豆の生育に好影響を与えたとみられる。なお、全国農業気象月報（2024.8.5）によれば、7 月末、黒竜江省等では着莢期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物需要増を受けて大豆粕需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.8 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.2%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

なお、USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、輸入量が予想を上回る見込みを受けて、前月予測から 3.5 百万トン上方修正され、111.5 百万トンの史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～6 月の輸入量は、前年同期より 2.1%減の 4,848.4 万トン。内訳は、ブラジル（3,443.5 万トン）、米国（1,215.8 万トン）、カナダ（98.8 万トン）の順。なお、ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 6 月号」によると、6 月の国内価格は、5,380 元/トンと前月（5,360 元/トン）から小幅に上昇し、中国政府系企業による継続的な買付けで価格は安定している。

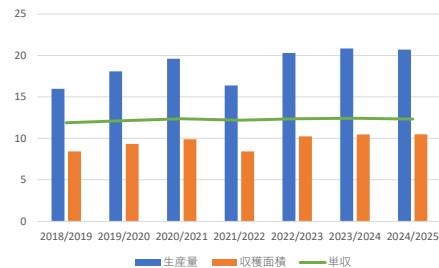
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の輸入量の引上げにより前月予測から 3.5 百万トン上方修正され、輸入増を受けて、前年度より 6.5%増の 45.7 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 2.8 ポイント増の 36.0%となる見込み。

大豆－中国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.3	20.8	20.7 (20.5)	-	▲ 0.7
消 費 量	117.5	121.7	126.8 (126.9)	-	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.0)	-	4.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸 入 量	104.5	111.5	109.0 (105.3)	-	▲ 2.2
期末在庫量	32.3	42.9	45.7 (40.0)	3.5	6.5
期末在庫率	27.5%	35.2%	36.0% (31.5%)	2.8	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.50 (8.40)	-	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97 (1.95)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)
IGC「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 中国産大豆の実産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t,百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」(2024.8.12)をもとに農林水産省にて作成。

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)					
2024年 1～6 月			2023年 1 月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	3,443.5	71.0	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	1,215.8	25.1	米国	2,374.3	24.0
カナダ	98.8	2.0	アルゼンチン	199.2	2.0
ロシア	39.5	0.8	カナダ	146.6	1.5
アルゼンチン	21.2	0.4	ロシア	129.3	1.3
ベナン	19.7	0.4	南アフリカ	14.7	0.1
その他	9.9	0.3	その他	38.6	0.4
計	4,848.4	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しから、前年度から 4.1%増の 51.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.7.3）によれば、7 月 3 日現在、大豆の収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 11.3%増の 47.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 17.9%減の 5.5 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年度より 19.6%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024 年 1～6 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 316.4 万トンで前年同期（78.4 万トン）の約 4 倍。輸出先は、中国（290.2 万トン）、米国（4.2 万トン）、チリ（3.1 万トン）の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増している。

2023 年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

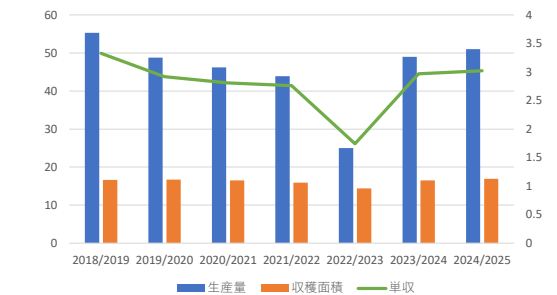
「OIL WORLD Weekly」（2024.6.28）によれば、アルゼンチンの農家が大豆を販売すれば政府は輸出税により外貨を獲得できるものの、輸出税の引き下げや更なる公式レート of 切り下げを待ち、農家は大豆を売り惜しんでいる。報道情報によれば、ペソ安が進行する中、農家は次期作の生産資材を購入するため、ペソと異なり価値が下がらない大豆を保有しているとみられる。このような状況を背景とした農家の売り惜しみにより、丸大豆の輸出や国内の大豆粕加工会社への大豆供給が抑えられる可能性もある。

大豆－アルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	25.0	49.0	51.0 (51.0)	-	-	4.1
消 費 量	36.6	42.8	47.6 (48.5)	-	-	11.3
うち搾油用	30.3	35.5	40.0 (42.0)	-	-	12.7
輸 出 量	4.2	5.6	4.5 (5.3)	▲ 1.0	▲	19.6
輸 入 量	9.1	6.7	5.5 (5.4)	-	▲	17.9
期末在庫量	17.0	24.4	28.8 (12.3)	0.5	-	18.1
期末在庫率	41.7%	50.4%	55.2% (22.8%)	2.0	-	4.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)	14.40	16.50	16.90 (15.87)	-	-	2.4
単収(t/ha)	1.74	2.97	3.02 (3.21)	-	-	1.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2024)、
IGC「Grain Market Report」(18 July 2024)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」（2024.8.12）をもとに農林水産省にて作成。

表 アルゼンチンの大豆輸出量と輸出先国

2024年6月		2024年 1月～6月	
国名	輸出量	国名	輸出量
中国	135.0	中国	290.2
アメリカ	4.2	アメリカ	4.2
ペルー	2.1	チリ	3.1
計	141.6	計	316.4

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）をもとに
農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2024/25年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

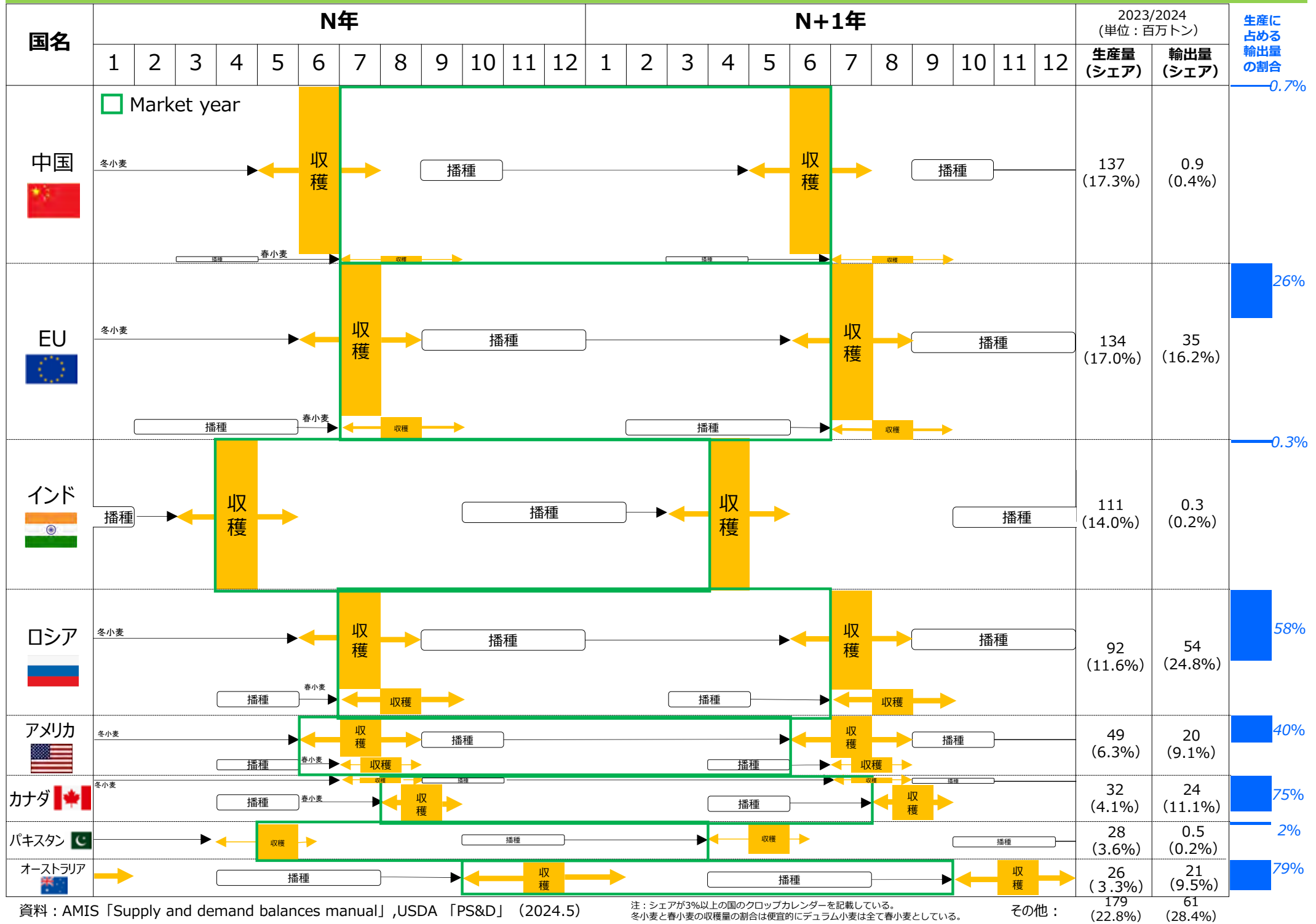
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



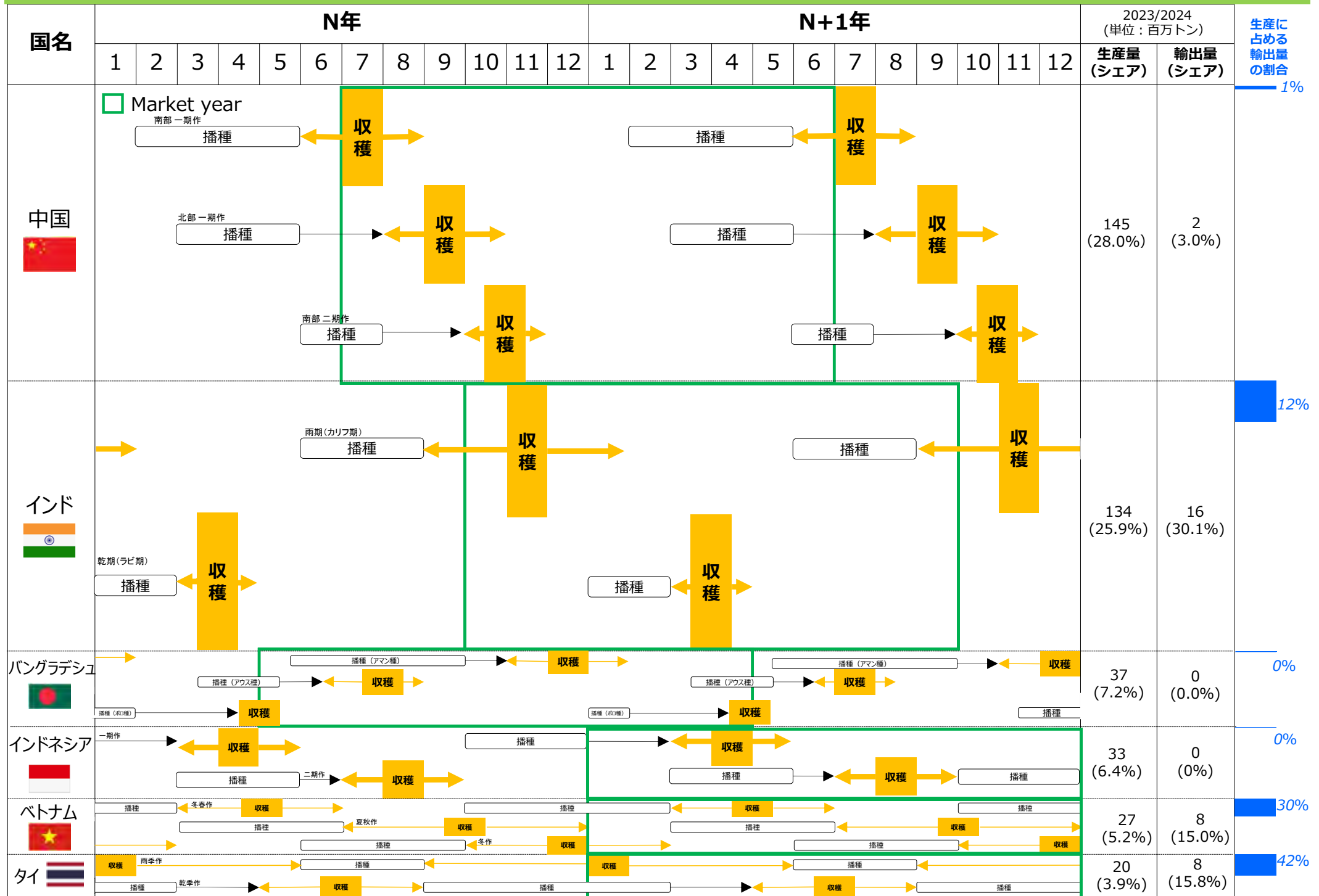
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他：

主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

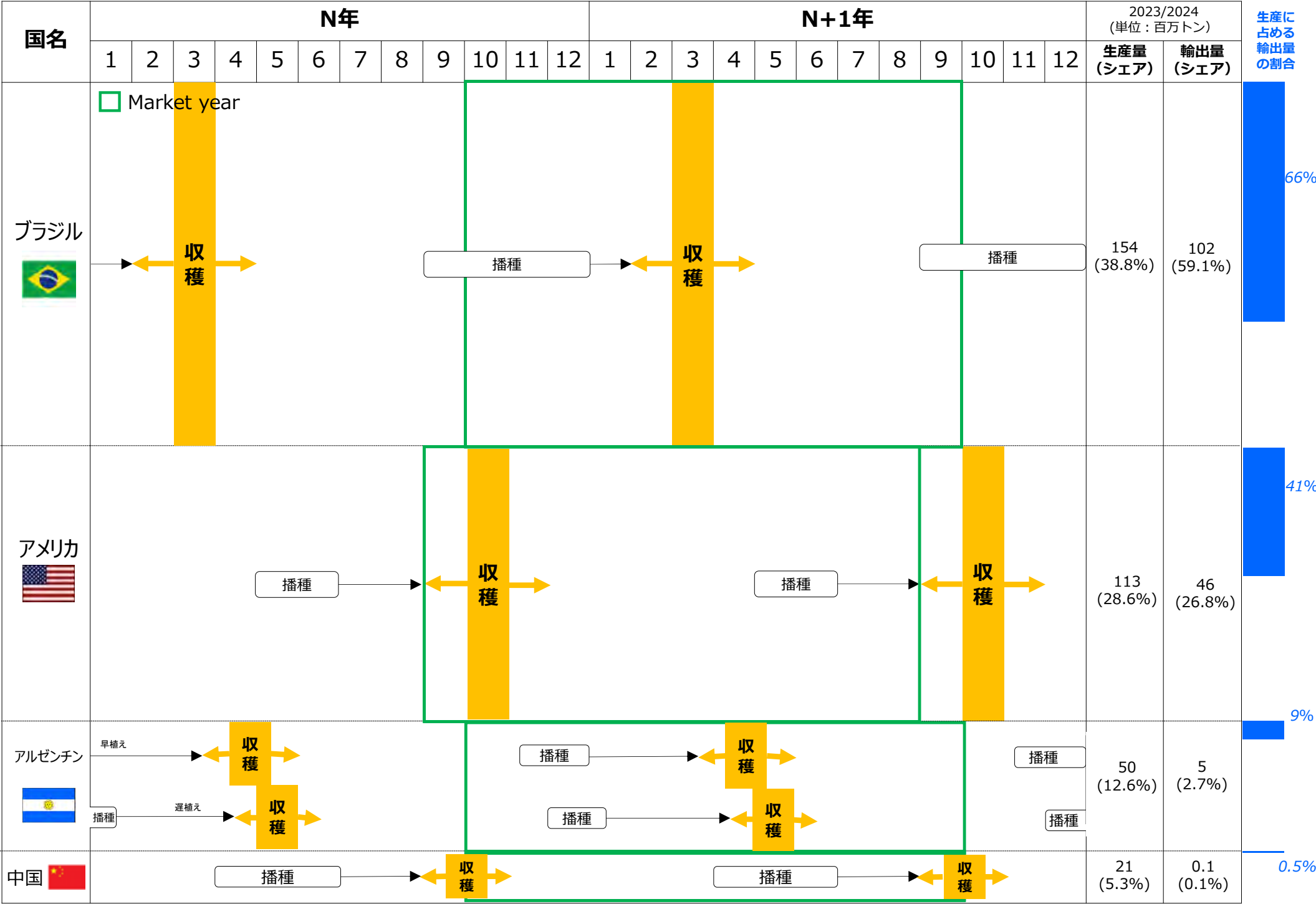
主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
アメリカ 	□ Market year								播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%				
中国 	播種 → 春作 → 収穫								播種 → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%				
ブラジル 	夏とうもろこし → 播種 → 収穫								播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%				
EU 	播種 → 収穫								播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%				
アルゼンチン 	播種 → 収穫								播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%				
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫								播種 → 雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%				

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA「PS&D」（2024.5）注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：59 (14.8%) 20 (11.3%)

主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	□ Market year						収穫	播種										収穫	播種				20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%		
カナダ 	播種						収穫	播種										収穫	播種				19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%		
中国 	収穫						播種										収穫	播種				15 (17.4%)	0 (0%)	0%			
インド 	収穫						播種										収穫	播種				13 (14.1%)	0 (0%)	0%			
オーストラリア 	播種						収穫	播種										収穫	播種				6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%		
ウクライナ 	収穫						播種	収穫										播種	収穫				4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%		
ロシア 	播種						収穫	播種										収穫	播種				4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%		

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2024 年 8 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2024/25 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html